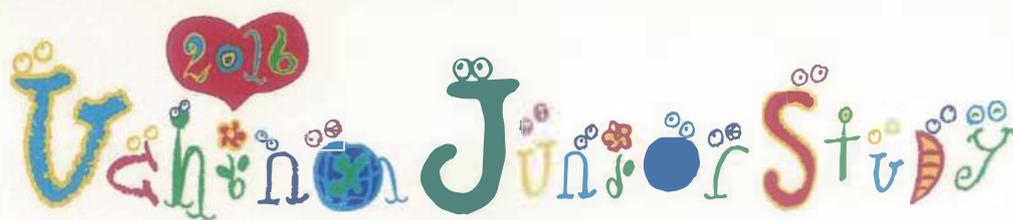


課内保存用

※配布厳禁

平成28年度ウチナージュニアスタディー事業報告書

Uchina junior Study 2016 Report



目次

1.概要

(1)ウチナージュニアスタディー事業概要	1
(2)総括・成果	2
(3)組織運営図	3
(4)行程表	4
(5)参加者名簿	5
(6)グループ表	7

2.事業内容

(1)事前学習	8
(2)お迎え	9
(3)学習プログラム	11
(4)エイサー講習	35
(5)見送り	36
(6)ボランティア打合せ	37
(7)アフターイベント	38
世界のウチナーンチュ大会	
おきなわ国際協力・交流フェスティバル2016	

3.参加者感想

(1)県内・県外参加者	42
(2)海外参加者	64
(3)青年リーダー	84

4.参考資料・その他

(1)メディア関連	86
(2)インターネットを利用した次世代ネットワークの構築	90
(3)制作物	91
(4)改善点	94
(5)過去の受入実績	95

ウチナージュニアスタディー事業概要

●事業目的

沖縄県の海外移住者子弟を本県に招待し、県内の同世代の青少年と生活を共にしながら沖縄の歴史や文化等を学ぶことにより、海外移住者子弟の母県・沖縄への理解と絆を深めるとともに、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。

●事業内容

(1) 事業実施

事前学習① 平成28年7月10日(日) 9:00~16:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

事前学習② 平成28年7月16日(土) 9:00~16:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

ツアー実施期間：平成28年7月31日(日)~8月6日(土)

報告会：平成28年8月6日(土) **事業最終日**

アフターイベント：世界のウチナーンチュ大会の開会宣言(県内参加者のみ)
平成28年10月27日(木)

(2) 参加者 44名

■海外参加者 13~19歳までの海外県系人20名

■県内参加者 沖縄県内の中学・高校生20名

■県外参加者 沖縄県外の高校生2名

■青年リーダー 沖縄県内/海外県系人2名

①海外・国別内訳【10カ国】

ブラジル連邦共和国 3名・アメリカ合衆国 4名・アルゼンチン共和国 2名・
メキシコ合衆国 1名・ペルー共和国 3名・カナダ 2名・ボリビア多民族国 3名・
マレーシア 1名・大韓民国 1名・ドイツ連邦共和国 1名

②海外・世代別内訳

海外参加者 1世=1名 2世=6名 3世=8名 4世=6名

(3) ツアー同行スタッフ

■沖縄県職員 1名・国際交流員 3名(アメリカ・ペルー・大韓民国 各1名) 計4名

■担当スタッフ 4名・通訳 3名(英語・スペイン語・ポルトガル語 各1名) 計7名

■その他 エイサー講師 1名・看護師 1名・ボランティア 約40名

(4) 学習プログラム

①自然学習

沖縄の自然や動植物に触れるアクティビティにより、自然の大切さを学ぶ。

②歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を訪れ、沖縄の歴史を学ぶ。

③文化学習

沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知り、体験する。

④平和学習

沖縄戦の概要を学び、平和について考える。

⑤社会学習

沖縄での生活を経験し、沖縄の「今」を考える。

⑥移民・移住学習

沖縄県の移民・移住の歴史やウチナーンチュ大会について学び、ウチナーンチュとしてのルーツを再認識するとともに、次世代のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

国境を越え、きずいたウチナンチュの絆「ウチナージュニアスタディー」。

今年度は、「世界のウチナンチュ大会」の開催年ということもあり、ツアー受入側の県内参加者の士気も例年以上に高まり、2006年より参加している先輩ボランティアなど多くの県内若年者が集結し、海外移住者子弟を心からもてなすツアーとなった。

海外参加者は、自身のルーツ・先祖の母国に緊張と不安、そして期待感を胸に抱き来沖。

一週間のツアーは、体験学習・平和学習・チームビルディングなど多彩なプログラムで行われ、特に「エイサー体験」では、県内最大級のエイサーイベントである「一万人のエイサー」プレイベントのエンディングチームとして参加。県内・海外参加者が心ひとつになって舞ったエイサーは、多くの観客に大きな感動を与えるものであった。本人たちにとっても一生忘れられない思い出となったようである。

県内・海外参加者ともに「貴重で刺激を受けた一週間であった」と語っており、「ツアーで学んだことは、自身の人生にとって価値あるものであり、この経験が一生の宝物となった」と、参加者の本ツアーに対する満足度の高さがうかがえた。

本ツアーでの出会い・体験は、互いに沖縄への理解と絆を深めるものであり、あらためて、ウチナンチュとしての誇り・アイデンティティを実感するものであったと考える。

そして、他国・異文化理解により、積極性・コミュニケーション力を養い新たな価値観を見出し、成長した様子もうかがえた。

本ツアーの効果により、10月に開催された「世界のウチナンチュ大会」では、県内参加者自ら開会式の演出を企画し、「国境なんて関係ないウチナンチュ」と熱く開会を宣言し、「世界のウチナンチュ大会」成功の一役を担ったのではないだろうか。

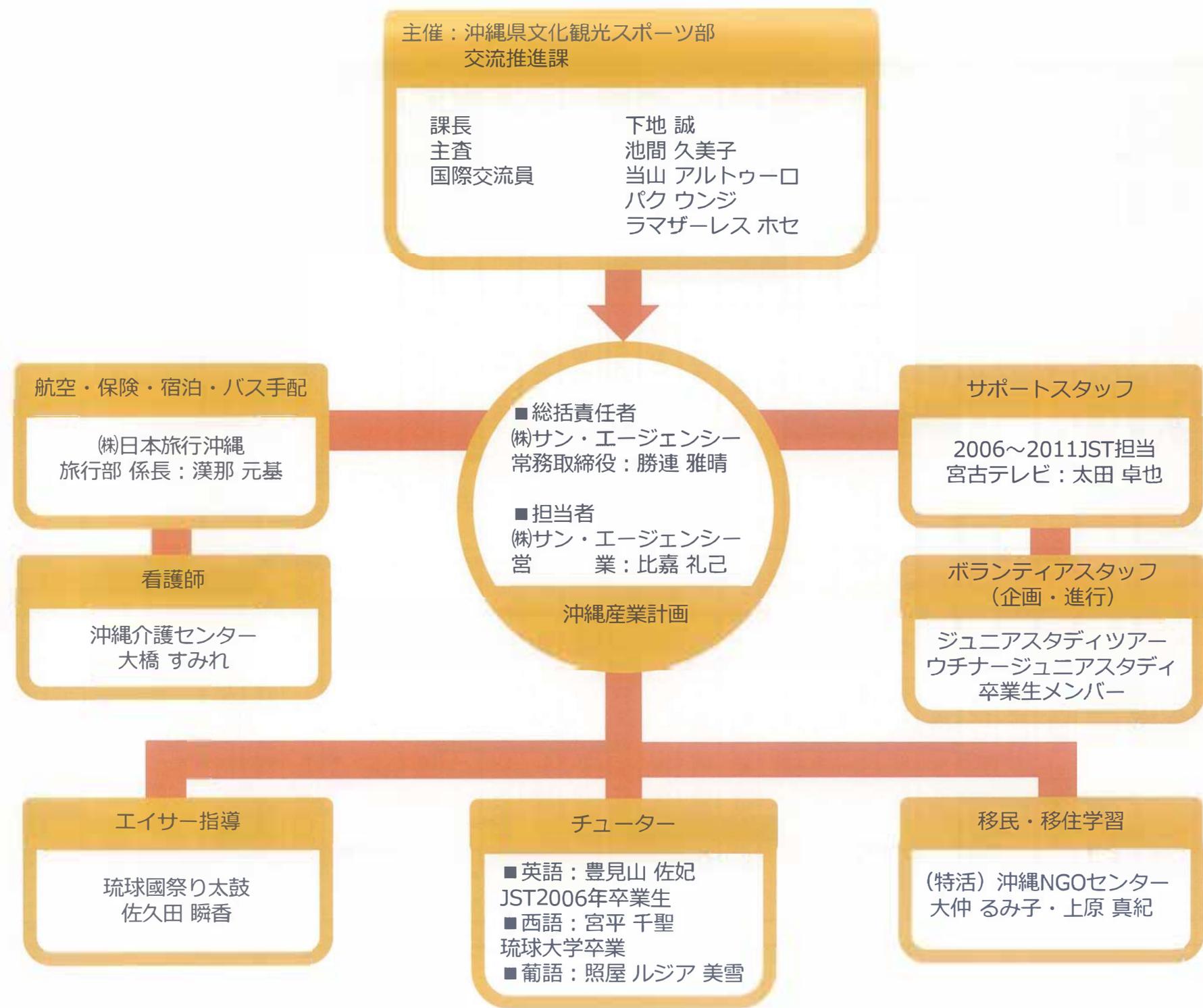
また、「世界のウチナンチュ大会」で再会を喜び合う姿、ツアー終了後にもSNS等で、互いに連絡を取り合い、将来を語り合っている姿は、まさに、ウチナンチュネットワークの広がり、絆の深まりを感じさせるものである。

今後、グローバル化が進む中、このネットワーク・絆がこれからを担う次世代の力となり、沖縄を支える力につながるのではないだろうか。

本ツアーは、ウチナーネットワークを担う次世代育成に大きく寄与するものであり、事業効果は、高いものと考ええる。

以下、参加者のコメントを一部抜粋

- かけがえのない素晴らしい仲間と出会うことができた。(県内 高2 16歳)
- 異文化理解とコミュニケーションをとることの大切さを実感。(県内 高3 17歳)
- 言葉の壁を越え、仲良くなれるのがウチナンチュ。(県内 高3 17歳)
- ウチナンチュの子孫であることへの誇りを感じた。
未来につながる友情の絆を築くことができた。(ポリビア 18歳)
- たとえどんなに距離が離れていても沖縄でできた友達との絆を大切にしていきたい。
(ブラジル 14歳)
- 世界中にいるウチナンチュの私たちにこの様な機会を与えてくれた沖縄県へ心から感謝します。(ブラジル 14歳)



月日	7/31(日) 1日目	7/1(月) 2日目	8/2(火) 3日目	8/3(水) 4日目	8/4(木) 5日目	8/5(金) 6日目	8/6(土) 7日目
6:30		6:30 起床	6:30 起床	6:30 起床	6:30 起床	7:00 起床	7:00 起床
7:00	7:30 主催者・スタッフ集合 (かりゆしアーバン・守礼)	7:00 朝食 アンケート冊子配布 検温チェックシート(看護師に提出)	7:00 朝食 アンケート冊子配布 検温チェックシート(看護師に提出)	7:00 朝食 アンケート冊子配布 検温チェックシート(看護師に提出)	7:00 朝食 アンケート冊子配布 検温チェックシート(看護師に提出)	7:30 朝食 アンケート冊子配布 検温チェックシート(看護師に提出)	7:30 朝食 ※荷物まとめ 検温チェックシート(看護師に提出)
8:00	8:00 参加者受付開始	8:15 ホテル出発 8:30 県庁到着 8:45 県知事表敬式典 (歓迎セレモニー、記念撮影) 9:30 県庁出発	8:00 ホテル出発	8:00 東の沢トレッキング	8:00 出発 ※北部観光バス		
9:00	8:50 参加者受付終了 9:00 開講式 ～オリエンテーション ・概要説明・確認 ・学習ツール配布 ・アンケート冊子配布		※道中伊豆インターにてトイレ休憩		※道中伊豆インターにてトイレ休憩		
10:00	①参加者自己紹介 ②班分け、班長紹介 ③海外参加者による移民の経緯	文化・歴史学習	自然学習(海)	自然学習(山・川)	平和学習	移民の歴史・社会学習	
11:00		10:00 習字体験	10:00 海の観察	10:30 美ら海水族館見学	10:15 平和記念資料館見学	9:00(ロイヤルオリオン 曜の間) 移民・移住学習②	9:00 出発 ゆいレール乗車 タイムスホールへ 荷物専用車両手配 到着後各自荷物を受け取り乗車へ進む 10:00 リハーサル
12:00	12:00 昼食(ランチBOX)	12:00 昼食 沖映通り パンボシュ	12:00 昼食(ランチBOX)	11:00 トレッキング終了～カレー作り ※大人チームも参加	11:00 平和の礎見学 ※事前に参加者の親戚調査	12:00 昼食(ランチBOX)	12:00 昼食(ランチBOX) ※さよならパーティーがあるので軽めに 12:30 来賓・一般参加者受付
13:00	移民の歴史・社会学習	文化・歴史学習	13:00 イルカショー見学	12:00 昼食 ※洗濯・フリータイム	11:45 昼食 糸満市「優美堂」	13:00 移民・移住学習まとめ	13:00 修了式及び報告会 ※前日まとめた移民学習の発表 およびUJSについて総括・提言発表
14:00	13:00 移民・移住学習①	13:30 那覇市伝統工芸館 伝統工芸体験 ※紅型・首里織・琉球漆器	14:00 海洋公園出発 ※ワルミ大橋・鹿我地島経由	13:00 ボランティア10名到着 BBQ・キャンプファイヤー準備	12:30 ひめゆり平和祈念資料館見学	14:00	※UJS修了認定書授与
15:00	15:00 エイサー講習	15:00 マチグラー敷策 ※ガイド 卒業生ボランティア	15:00 福地川海浜公園 ビーチアクティビティ	15:00 ボランティア10名到着 BBQ・キャンプファイヤー準備	13:00 平和構築ワークショップ ・アニメ「ひめゆり」上映 ・ワークショップ	講師:知念英信氏	
16:00	16:30 会場準備～途中休憩～	15:00 エイサー講習	17:00 つつじエコパーク到着	15:00 エイサー講習	15:00 ひめゆり祈念資料館出発	16:00	15:00 修了式終了 15:10 さよならパーティー準備 15:20 さよならパーティー開始 ※進行・演出 卒業生ボランティア ※参加人数100名程度
17:00	17:00 交流プログラム ※進行・演出 卒業生ボランティア	16:45 敷策終了 17:00 ホテル到着 ※洗濯・フリータイム	17:00 つつじエコパーク到着	17:30 夕食(BBQ)	16:00 沖縄県立博物館見学	16:30 洗濯・エイサー講習	17:30 さよならパーティー終了 パレット久茂地前へ移動 17:45 エイサー演舞 (パレット久茂地前) 18:00 終了～解散
18:00	18:10 会場転換 18:30 ウェルカムパーティー (かりゆしアーバン・シエルホール) ※参加人数100名程度	18:00 夕食	18:00 夕食		17:00 沖縄県立博物館出発 17:15 ホテル到着	18:30 夕食	
19:00		19:00 一日の振り返り 19:30 エイサー講習	19:00 一日の振り返り 19:30 洗濯・エイサー講習	文化プログラム	18:00		
20:00	20:00 パーティー終了			キャンプファイヤー	18:30 夕食		
21:00	21:00 ～日程終了～ スタッフミーティング	21:00 ～日程終了～ スタッフミーティング	21:00 ～日程終了～ スタッフミーティング	20:30 一日の振り返り	19:30 一日の振り返り 洗濯・エイサー講習(時間は調整)		
22:00	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	21:00 ～日程終了～ スタッフミーティング	21:00 一日の振り返り 洗濯・エイサー講習(時間は調整)		
宿泊地	かりゆしアーバン	かりゆしアーバン	つつじエコパーク	つつじエコパーク	ホテルロイヤルオリオン	ホテルロイヤルオリオン	ホームステイ

参加者名簿

県内参加者名簿

	氏名	年齢	性別	学校名
1	平敷 雅 Miyabi Heshiki	14	女	金城中学校
2	城間 魁生 Kaito Shiroma	13	男	寄宮中学校
3	市場 優香 Yuka Ichiba	14	女	普天間中学校
4	島尻 和慶 Kazuyoshi Shimajiri	13	男	石垣第二中学校
5	金城 未来 Miki Kinjo	16	女	開邦高等学校
6	赤嶺 未夢 Miyu Akamine	17	女	豊見城南高等学校
7	波平 みなこ Minako Namihira	17	女	向陽高等学校
8	安次嶺 佳澄 Kasumi ashimine	17	女	向陽高等学校
9	網敷 美南海 Minami Amishiki	17	女	向陽高等学校
10	知念 小南海 Konami Chinen	17	女	向陽高等学校
11	伊集 まりな Marina Iju	17	女	向陽高等学校
12	石川 勇人 Yuto Ishikawa	17	男	那覇国際高等学校
13	外間 奈々子 Nanako Hokama	16	女	那覇国際高等学校
14	大嶺 華蓮 Karen Omine	17	女	沖縄工業高等学校
15	宮里 百花 Momoka Miyazato	15	女	首里高等学校
16	中村 優太 Yuta Nakamura	18	男	沖縄尚学高等学校
17	上原 充葉 Mitsuba Uehara	16	女	沖縄尚学高等学校
18	末吉 りんか Rinka Sueyoshi	16	女	沖縄尚学高等学校
19	又吉 ネリナ Nerina Matayoshi	17	女	沖縄カトリック高等学校
20	親泊 里奈 Rina Oyadomari	16	女	宮古高等学校

県外参加者名簿

	氏名	年齢	性別	学校名
1	大田 由依奈 Yuina Ota	17	女	兵庫県立尼崎高等学校
2	下崎 葵 Aoi Shimosaki	17	女	大阪府立泉尾高等学校

青年リーダー名簿

	氏名	年齢	性別	学校名/県人会
1	名嘉真 英亮 Hideaki Nakama	21	男	沖縄国際大学
2	内間 真理 Mari Uchima	22	女	ドイツ沖縄県人会

参加者名簿

海外参加者名簿

	氏名	性別	世代	年齢	国名	県人会名
1	ヒューイット ショーン 瑛 SEAN AKIRA HEWITT	男	1	18	アメリカ合衆国	ワシントンDC沖縄会
2	ロペズ 知絵里 糸村 SHIERRY LOPEZ-ITOMURA	女	2	15		コロラド州沖縄県人会
3	エイプリル・ウヅキ・ニモ APRIL UZUKI NIMMO	女	2	16		北米沖縄県人会
4	敬吾 ロビンソン KEIGO ROBINSON	男	2	16		アトランタ沖縄県人会
5	金城 ケイドン KAYDON ADAM KANASHIRO	男	4	14	カナダ	トロント球陽会
6	朝田 陽向 ホープ HINATA ASADA	女	2	14		バンクーバー沖縄県友愛会
7	井上 文音 AYANE INOUE	女	3	18	ボリビア多民族国	ボリビア沖縄県人会
8	上地 メリサ MELISSA UECHI	女	3	18		
9	比嘉 (ウエマ) 健 セバスティアン KEN SEBASTIAN UEMA HIGA	男	3	17		
10	アザマ タイラ カオリ KAORI NICOLE AZAMA TAIRA	女	3	18	ペルー共和国	ペルー沖縄県人会
11	オオシロ ミネイ ニコル EIMI NICOLE OSHIRO MINEI	女	4	16		
12	イナミネ 照喜名 アイミ AIMI PAULA ANDREA INAMINE TERUKINA	女	3	16		
13	ルイス ハツミ レベッカ REBECA HATSUMI RUIZ PEREZ	女	4	16	メキシコ合衆国	メキシコ沖縄県人会
14	デシケイラ パウラ サユリ 屋良 PAULA SAYURI YARA DE SIQUEIRA	女	4	14	ブラジル連邦共和国	ブラジル沖縄県人会
15	比嘉 ブルーナ スエコ BURUNA SUEKO HIGA	女	3	18		
16	アルツール ケンゾウ ヨナミネ カイハラ ARTHUR KENZO YONAMINE KAIHARA	男	3	16		カンボグランデ沖縄県人会
17	安里 ルーカス LUCAS JAVIER ASATO	男	4	14	アルゼンチン共和国	在亜沖縄県人連合会
18	仲宗根 ルシア NAKASONE LUCIA MICAELA	女	3	17		
19	劉 萌奈 (ろう もな) LOW MO NA	女	2	16	マレーシア	マレーシア沖縄会
20	ソン キソン (宋 起成) SONG KI SUNG	男	4	14	大韓民国	韓国沖縄県人会

グループ表

★グループリーダー

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	★赤嶺 未夢	★安次嶺 佳澄	★網敷 美南海
	Miyu Akamine	Kasumi ashimine	Minami Amishiki
	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan
2	波平 みなこ	大嶺 華蓮	親泊 里奈
	Minako Namihira	Karen Omine	Rina Oyadomari
	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan
3	上原 充葉	下崎 葵	末吉 りんか
	Mitsuba Uehara	Aoi Shimozaki	Rinka Sueyoshi
	沖縄-Okinawa Japan	大阪-Osaka Japan	沖縄-Okinawa Japan
4	平敷 雅	ヒューイット ショーン 瑛	城間 魁生
	Miyabi Heshiki	Sean Akira Hewitt	Kaito Shiroma
	沖縄-Okinawa Japan	アメリカ-USA	沖縄-Okinawa Japan
5	ロペズ 知絵里 糸村	デンケイラ パウラ サユリ 屋良	朝田 陽向 ホープ
	Shierry Lopez Itomura	Paula Sayuri Yara De Siqueira	Hinata Asada
	アメリカ-USA	ブラジル-Brasil	カナダ-Canada
6	井上 文音	仲宗根 ルシア	比嘉 健 セバステアン
	Ayane Inoue	Nakasone Lucia Micaela	Ken Sebastian Uema Higa
	ボリビア-Bolivia	アルゼンチン-Argentina	ボリビア-Bolivia
7	安里 ルーカス	宋 起成	アザマ タイラ カオリ
	Lucas Javier Asato	Song Ki Sung	Kaori Nicole Azama Taira
	アルゼンチン-Argentina	韓国-Korea	ペルー-Peru
8	名嘉真 英亮		
	Hideaki Nakama		
	沖縄-Okinawa Japan		
	Dグループ	Eグループ	Fグループ
1	★石川 勇人	★仲村 優太	★又吉 ネリナ
	Yuto Ishikawa	Yuta Nakamura	Nerina Matayoshi
	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan
2	金城 未来	知念 小南海	伊集 まりな
	Miki Kinjyo	Konami Chinen	Marina Ijyu
	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan
3	外間 奈々子	大田 由依奈	宮里 百花
	Nanako Hokama	Yuina Ota	Momoka Miyazato
	沖縄-Okinawa Japan	兵庫-Hyogo Japan	沖縄-Okinawa Japan
4	島尻 和慶	市場 優香	敬吾 ロビンソン
	Kazuyoshi Shimajiri	Yuka Ichiba	Keigo Robinson
	沖縄-Okinawa Japan	沖縄-Okinawa Japan	アメリカ-USA
5	エイプリル ウヅキ ニモ	金城 ケイドン	ルイス ハツミ レベッカ
	April Uzuki Nimmo	Kaydon Adam Kanashiro	Rebeca Hatzumi Ruiz Perez
	アメリカ-USA	カナダ-Canada	メキシコ-Mexico
6	オオシロ ミネイ ニコル	上地 メリサ	アルツール ケンゾウ ヨナミネ カイハラ
	Eimi Nicole Oshiro MInei	Melissa Uechi	Arthur Kenzo Yonamine Kaihara
	ペルー-Peru	ボリビア-Bolivia	ブラジル-Brasil
7	劉 萌奈	イナミネ 照喜名 アイミ	内間 真理
	Low Mona	Aimi Paula Andrea Inamine Terukina	Mari Uchima
	マレーシア-Malaysia	ペルー-Peru	ドイツ-Germany
8		比嘉 ブルーナ スエコ	
		Buruna Sueko Higa	
		ブラジル-Brasil	

事前学習①・②

●目的

ウチナージュニアスタディーを実施するにあたり、県内参加者を対象に事前に事業説明を行う事で事業の目的を理解してもらい、海外参加者をリードしホスト役として受け入れる自覚を持たせる。

事前学習①：NGOセンターから講師を招き、沖縄の移民の歴史を学び、グループで討論し発表を行う。

事前学習②：午前の部では移民講師を招き、移民の実体験の話を書く。また事前学習①の課題を発表する。午後の部ではボランティア(過去参加者)がウチナージュニアスタディー恒例のダンスとゲームの練習を行う。

事前学習①

日時：7月10日(日) 9:00～16:00

場所：牧志駅前ほしぞら公民館 第一教室

講師：大仲るみ子・上原真紀・中村可愛

●実施内容

- ①オリエンテーション(スタッフ紹介)
- ②事業の趣旨の説明(スケジュール・心得)
- ③アイスブレイキング
- ④沖縄の移民学習
- ⑤グループ討論・発表
- ⑥次回の事前学習までにやっておく課題



事前学習②

日時：7月16日(土) 9:00～16:00

場所：てんぶす館 レッスンルーム①

講師：大仲るみ子・上原真紀・加藤ルシアナ美香

●実施内容

- ①アイスブレイキング
- ②県内参加者のファミリーストーリーを発表
- ③移民講師による講話
- ④移民小唄から学ぶ
- ⑤ボランティア紹介
- ⑥ダンスとゲーム



●結果

事前学習を行うことにより、移民学習を学ぶことで「ウチナーンチュ」として意識が向上した。さらにボランティア(過去参加者)との交流で海外参加者とのコミュニケーションの取り方やダンス・ゲームを盛り込み、県内参加者1人1人が成長し、ホスト役としての自覚を持たせた。

●参加者の感想

自分のルーツを発表できたし、他の参加者やルシアナさんのルーツを聞いてとてもいい経験になった。ルシアナさんの「自分のルーツをつくっていく」という言葉が強く印象に残った。移民小唄も聴いて、ウチナー文化には“チャンプルー精神”があると感じた。

県内参加者：女子

お迎え

日時：7月24日(日) 11:00~23:00

場所：那覇空港



お迎え

日時：7月24日(日) 11:00~23:00
7月30日(土) 14:00~21:30
場所：那覇空港



学習プログラム1日目(スケジュール)

■ [1日目] 7月31日(日)

**実施内容： ● 開講式～オリエンテーション ● 交流プログラム
● ウェルカムパーティー**

- 09:00 開講式～オリエンテーション (かりゆしアーバン・守礼)
・ 概要説明 / 確認
・ 学習ツール配布
・ スタッフ紹介
① 参加者自己紹介
② 班分け、班長紹介
- 12:00 昼食 (守礼でお弁当)
- 13:00 海外参加者による移民の経緯発表
- 15:00 NGOセンターの講師のもと、移民・移住学習
- 16:30 会場準備～途中休憩～
- 17:00 交流プログラム：進行 UJS卒業生ボランティア
ダンスやゲーム
ゲーム：人間知恵の輪、じゃんけん列車
ダンス：5・6・7・8、マカレナ、Ai Se Eu Te Pego!、
YMCA
- 18:10 会場転換(かりゆしアーバン・シェルホール)
参加者は部屋へ荷物を移動
スタッフ・ボランティアはウェルカムパーティー準備
- 18:30 ウェルカムパーティー開始
- 20:00 ウェルカムパーティー終了
- 21:00 スタッフミーティング

学習プログラム1日目

オリエンテーション 9:00～12:00

●目的

ウチナージュニアスタディーの趣旨・概要を説明し、事業について理解させ楽しく参加してもらうために実施。
県内外参加者・海外参加者は初対面であるため緊張をほぐすためにアイスブレイキングをして、交流をし、楽しくスタートを切る。

●実施内容

- ①オリエンテーション(スタッフ紹介)
- ②事業の趣旨の説明(スケジュール・心得)
- ③グループリーダー紹介・グループ分け
- ④アイスブレイキング(自己紹介・軽くダンスとゲーム)
- ⑤昼食



●結果

オリエンテーションを行う前の参加者の顔は緊張して硬かったがアイスブレイキングをするうちに表情が和くなっていった。思ったよりも県内外参加者と海外参加者が楽しく会話していたりして、すごく良い雰囲気になっていた。交流はとても上手くいった。

海外参加者による移民の経緯 13:00～15:00

●目的

海外参加者による母国のプレゼンテーションを行い、私たちの国ではどのような文化があるのかを参加者全員に異国文化を知ってもらう。
異国への興味を持たせ、将来は海外への意欲を高める。また文化を通してコミュニケーションへの繋がりにする。

●実施内容

- ①各国の文化紹介
- ②ファミリーストーリー(移民の経緯)
※各国のプレゼンのスケジュール
カナダ→ポリビア→ペルー→メキシコ→ブラジル→
アルゼンチン→マレーシア→韓国→アメリカ



●結果

参加者全員が各国のプレゼンを聞き異国の地理や料理に対して、とても興味を持ち「海外に行ってみたい」と発言する県内参加者の姿も何回か見受けられた。
母国と違う文化などを学ぶことで、とても国際への視野が広くなり、さらに海外発信への気持ちが高まった。

●参加者の感想

みんなバックグラウンドに違いがあるのは当然だけど同じ国同士でも、それぞれの歴史があってプレゼンを聞いて、とっても楽しかった。
県内参加者：男子

学習プログラム1日目

移民・移住学習 15:00～16:30

講師：大仲るみ子・上原真紀

●目的

自分が1人のウチナンチュとしてアイデンティティーを考える。

写真や海外参加者の話を聞いて、現在の日系社会や生活の様子、各国に暮らすウチナンチュの気持ちに寄り添うことを目的とする。

●実施内容

①わたしは何人？

自分のアイデンティティーについて考え、ワークシートに記入し7人グループに分かれて1人ずつグループ内で発表。

②フォトランゲージから読み取る(グループ)

写真から現在の日系社会や生活の様子を知る。

③フォトランゲージ発表(グループ)

フォトランゲージを読み取ったあとにグループ討論を行い、他のグループに発表をおこなう。



●結果

海外参加者は「なぜ私はこのプログラムに参加できているのか」、「私は何人なのか」を考えて、私は1人のウチナンチュだと気づいた様子が見受けられた。

県内参加者は海外参加者の「沖縄に対しての思い」に驚かされ、あまり意識していなかった「ウチナンチュ」を考え、情けなさを感じた。

交流プログラム 17:00～18:10

●目的

グループ対抗ゲームを行うことにより、これから1週間プログラムをより楽しくできるようにコミュニケーションの向上を目指す。

●実施内容

ボランティア(過去参加者)が進行を行い、参加者全員が楽しめるゲームやダンスを実施。

①ゲーム：人間知恵の輪/じゃんけん列車

②ダンス：5・6・7・8/マカレナ/YMCA/Ai Se Eu Te Pego!

●結果

個人戦で行うゲームよりもグループ対抗でのゲームのほうが楽しそうだった。さらにコミュニケーションを多く取り合うため、チームワークがより一層深まった。

参加者全員が汗をかき、顔には100%スマイルといえるほど笑顔で楽しんでいる様子が見ええた。

●参加者の感想

緊張で積極的に声かけられなかったけど色々なゲームやレクリエーションをやっていくうちにグループと仲良くなっていった。ウチナンチュと交流できてとても楽しかったです。

海外参加者：女子

協力プレイをすることで全員が1つになった。みんなの絆が深まった。

県内参加者：男子

学習プログラム1日目

ウェルカムパーティー 18:30～20:00

●目的

- ①海外参加者と県内参加者同士が言葉や文化の違いにふれ、本事業を有意義なものにするために行う。
- ②参加者個人の特技を生かし、余興を披露してもらい、参加型形式とする。
同世代が同世代をもてなす交流をする。ジュニアスタディー卒業生に参加協力を呼び掛け、プログラムを作成。進行も卒業生が行う事により、親近感あふれアットホームな場となりウチナーネットワーク構築の早道とする。

●実施内容

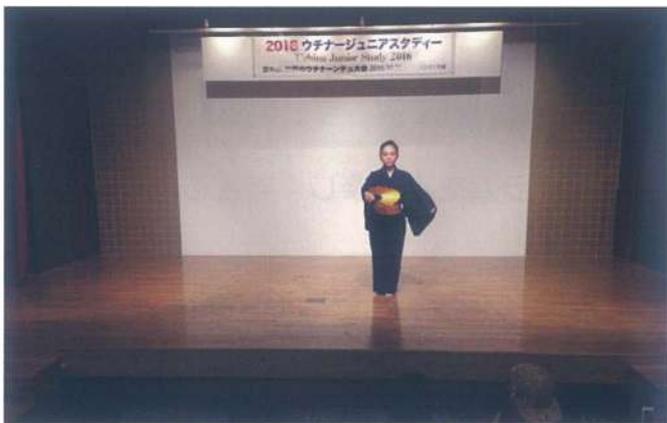
ウェルカムパーティー：司会進行 ボランティア(UJS卒業生)
沖縄県交流推進課の課長と沖縄カナダ協会会長からの歓迎の挨拶。
県内参加者が事前学習で海外参加者をホスト役として受け入れるために沖縄(日本)の文化を余興披露、場内はにぎやかな雰囲気を実施。

●結果

県内参加者がおこなった制服ファッションショーに特に海外参加者は異国にはない制服に興味津々だった。
最後にこの1週間楽しむ意味合いで会場内全員でカチャーシーでウェルカムパーティーは閉幕した。

●感想

ウェルカムパーティーでの三線や琉舞を見て、刺激をととても受けて私ももっと沖縄の文化を学びたいと思った。
海外参加者：女子



ウェルカムパーティー式次第

日時：平成28年7月31日（日） 18:30～20:00

場所：かりゆしアーバン シェルホール

18:40	開会	司会：ジュニアスタディーツアー卒業生
18:40	歓迎挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課課長 下地 誠
18:45	乾杯の音頭	沖縄カナダ協会会長 大山 盛稔
	食事	
19:20	余興(開始)	
19:20	劇・制服ファッションショー	県内参加者全員
19:25	三線	親泊 里奈
19:30	琉舞	末吉 りんか
19:35	三線	上原 充葉
19:40	うた・ダンス	向陽高校参加者5人
19:40	カチャーシー	参加者全員

学習プログラム2日目(スケジュール)

■ [2日目] 8月1日(月)

実施内容： ●表敬訪問 ●首里城見学 ●伝統工芸体験
●マチグワー散策

- 07:00 朝食
- 08:15 ホテル出発・概要説明・確認
- 08:30 県庁到着
- 08:45 県知事表敬式典(歓迎セレモニー、記念撮影)
- 09:30 県庁訪問
- 10:00 首里城見学
- 12:00 昼食(沖映通りバンボッシュ)
- 13:30 那覇市伝統工芸館
伝統工芸体験(紅型・首里織・琉球漆器)
- 15:00 マチグワー散策(ガイド 卒業生ボランティア)
- 16:45 散策終了
- 17:00 ホテル到着(洗濯・フリータイム)
- 18:00 夕食参加者は部屋へ荷物を移動)
- 19:00 一日の振り返り
- 19:30 エイサー講習
- 21:00 スタッフミーティング

学習プログラム2日目

歓迎セレモニー 8:45～10:00

場所： 沖縄県庁

●目的

参加者にとって各国の代表という意識を持ってもらい自分のルーツである沖縄県の行政の中核である県庁を表敬する。例年、各マスコミから取材があり、県民に広く本事業の開催を周知及びPRを図る。



●結果

「この1週間で皆がかげがえのない思い出を作り、友だちも作り、貴重な体験を得られることを願います。」(アメリカ：ヒューイット・ショーン・瑛)、「我々が国境の壁を壊し沖縄と世界を結ぶ架け橋になることを誓います。」(沖縄県：又吉 ネリナ)と誓いました。

前田部長は「今回のプログラムを通して、一人ひとりが将来のウチナーネットワークの担い手として成長し、次世代を担うウチナンチュ同士の絆がより一層深まることで、大会の成功に繋がることを、心より期待しております。」と激励の言葉を述べた。

式典後はテレビや新聞社から参加者にインタビューを受けたり、海外参加者から前田部長へお土産を手渡すシーンが見られた。

首里城見学 10:00～12:00

●目的

琉球王国の政治、外交、祭祀の中心地として沖縄の歴史を知る上で欠かせない世界遺産「首里城」。建築文化や美術工芸など、歴史以外の文化遺産も学ぶことができ、約450年にわたる琉球王国の歴史、琉球処分による王朝崩壊、太平洋戦争による全焼など琉球の歴史と文化、沖縄の近・現代史を事業の冒頭で知ることによってウチナンチュのルーツを学ぶ。

●実施内容

守礼門での全体写真撮影。
首里城ガイドスタッフを説明を受けながら首里城の歴史を学ぶ。
首里城での全体写真撮影。

●結果

海外参加者が沖縄(琉球)について深く学び、さらに沖縄のことを学びたいという意欲が大きくなった。

●参加者の感想

琉球時代の衣服や戦後に復元された絵画や琉球の王様の冠などが見れて、沖縄になる前の歴史を学べて良かったです。

海外参加者：女子



歓迎セレモニー式次第

日時：平成28年8月1日（月）8:45～9:30
場所：沖縄県庁1階 県民ホール
司会：池間 久美子

- | | | |
|------|---------|--|
| 8:45 | 開会 | 司会 |
| 8:47 | 参加者紹介 | 司会 |
| 8:57 | 歓迎の挨拶 | 沖縄県文化観光スポーツ部長
前田 光幸 |
| 9:02 | 参加者代表挨拶 | 海外参加者代表
ワシントンDC沖縄会
ヒューイット・シヨーン・瑛

県内参加者代表
沖縄カトリック高校
又吉 ネリナ |
| 9:12 | 閉会 | 司会 |
| | ～中庭に移動～ | |
| 9:15 | 記念撮影 | |

学習プログラム2日目

伝統工芸体験 13:30～15:00

場所：那覇市伝統工芸館

●目的

古くから受け継がれている沖縄の伝統工芸を実際に自分の手で作り、沖縄の伝統を体験する。

●実施内容

首里織4名・琉球漆器19名・紅型21名に分かれて作成。作品はお土産として持ち帰る。

●結果

沖縄の伝統工芸品を自分だけのオリジナル作品が作ることができ、その工芸品を自分の国に持ち帰るといので、参加者にはとても好評だった。



マチグゥー散策 15:00～16:45

場所：平和通り等

●目的

ボランティアスタッフが参加者の案内役となり、マチグゥー散策し沖縄の食や生活文化をふれる。

●実施内容

案内役のボランティアスタッフが参加者グループに加わり、ボランティアスタッフそれぞれが作成した散策ルートを散策した。

●結果

実際に那覇市平和通りや公設市場を散策し、地元の人たちと会話したり、休憩をかねて商店で沖縄の食べ物を食べ、楽しく沖縄の生活文化にふれた。

●参加者の感想

マチグゥー散策では綺麗な場所を歩いたり、県内参加者とコミュニケーションを取りながら散策できて私にとって、とてもいい経験になった。

海外参加者：女子



学習プログラム3日目(スケジュール)

■ [3日目] 8月2日(火)

実施内容： ●美ら海水族館見学
●ビーチアクティビティ(マリン体験)

- 08:00 ホテル出発
- 10:00 海の講習
- 10:30 美ら海水族館見学
- 12:00 昼食(弁当)
- 13:00 イルカショー見学
- 14:00 海洋博公園出発
- 15:00 福地川海浜公園(ビーチアクティビティ)
- 17:00 つつじエコパーク到着
- 18:00 夕食
- 19:00 一日の振り返り
- 19:30 洗濯・エイサー講習
- 21:00 スタッフミーティング

学習プログラム3日目

海の講習	10:00～10:30
美ら海水族館見学	10:30～12:00
イルカショー	13:00～14:00

●目的

沖縄の海の生物などを学んだ後に世界最大級の亚克力ガラスで作られたパノラマウィンドウを通して、沖縄の海の輝きや神秘、その美しさを体感し沖縄の海という自然遺産の大切さを学ぶ。

●実施内容

- ①美ら海財団職員による自然学校を実施し、普段一般人が入れない水族館の裏側に入り講習を受けた。
- ②水族館に入場し、ふれあいコーナーでサンゴや魚といった海の生物を触る。
- ③イルカショーを観覧。

●結果

滅多に見れない魚や海の生物に参加者全員興味深々だった。海の生態の知識が深まった。

●参加者の感想

水族館で海の生物の扱いについて学んだ。初めて見る魚もいて、興味が湧いた。
みんなで見たイルカショーは特に楽しかった。
海外参加者：女子

普段見れない美ら海水族館の裏側は素晴らしいところだった。飼育員の仕事は簡単ではないと気づいた。
県内参加者：男子



ビーチアクティビティ 15:00~17:00 場所：東村福地川海浜公園

●目的

自然学習の一環として、沖縄の海で遊泳やビーチバレーやマリンスポーツなど豊富なアクティビティが体験でき、参加者のコミュニケーションや絆を深める。

●実施内容

- ①バナナボート
- ②ビーチバレー
- ③ビーチサッカー
- ④遊泳

●結果

マリンスポーツを通して、参加者さらに参加者たちの一人一人が積極的にコミュニケーションをとる姿が見えた。遊泳では参加者全員が集まって楽しく遊んでいた。ビーチで仲がさらに深まったと感じた。



●参加者の感想

ビーチでいつもよりも自分がオープンになり、参加者と思いきり遊んでリラックスできた。新たな友情が生まれたと思う。

海外参加者：女子

私は県内参加者だけどあまり話したことのない同じ県内参加者と会話できた。

自分から積極的に話すことで皆と楽しくビーチで遊べた。

ビーチアクティビティを通して、参加者とともに仲良くなれたいい思い出となった。

県内参加者：女子



学習プログラム4日目(スケジュール)

■ [4日目] 8月3日(水)

実施内容： ●川トレッキング ●カレー作り ●BBQ
●キャンプファイヤー

- 08:00 東の沢トレッキング
- 11:00 トレッキング終了～カレー作り～
- 12:00 昼食(カレー)
- 13:00 BBQ・キャンプファイヤー準備
- 15:00 エイサー講習
- 17:30 夕食(BBQ)
- 18:00 キャンプファイヤー
- 20:30 一日の振り返り
- 21:00 スタッフミーティング
- 22:00 就寝

学習プログラム4日目

東の沢 8:00～11:00

●目的

ダイナミックな景観や様々な表情を見せる水中生物・亜熱帯特有の世界的にも貴重な動植物などを専門ガイドによる説明と共に間近で観察し、沖縄の神秘的な大自然を存分に味う。やんばるの自然を満喫しながら、参加者同士が互いに助け合い、前に進むチームビルディング要素を兼ね備えた体験。

●実施内容

つつじエコパーク敷地内のできる「東の沢」リバートレッキングをする。
やんばるの山々がもたらす豊かな自然を体験する。

●結果

海外参加者が県内参加者に手を差し伸べて助け合う姿も見受けられ、とても良い関係を築ける体験プログラムとなった。



カレー作り・昼食 11:00～13:00

●実施内容

リバートレッキング後にグループでカレー作り。

●結果

グループで共同作業をおこない、役割分担を決めコミュニケーションを取りながら楽しくカレーを作った。

完成後はグループでカレーを食べたり、他のグループのカレーを交換し合い味の食べ比べをしているのも見受けられた。

●参加者の感想

カレー作りは役割を決め完成できた達成感があり、みんなで作るカレーはとてもおいしかった。



キャンプファイヤー 18:00~20:30

●目的

ボランティアスタッフが主体となり企画・運営を行いグループ対抗の様々なゲームをする。クライマックスの点火の際には「友情の火」がボランティアから参加者に受け継がれ、参加者全員で火を囲み、ダンスをし会場全体が一体となり強い友情が生まれる。



●実施内容

グループ対抗ゲーム：絵の伝言ゲーム/飴玉探しゲーム/ジェスチャーゲーム
友情の火を点火した後に参加者全員でダンス。
ダンス：5・6・7・8/マカレナ/YMCA/Ai Se Eu Te Pego!

●結果

グループ対抗ゲームではかなり盛り上がり、キャンプファイヤーで国境を越え、これからもずっと友達として繋がると誓った。

●参加者の感想

グループ対抗ゲームを通して、グループメンバーをみんなで応援して、とても興奮した場面がいくつかあった。

とても楽しくて時間が止まってほしかった。

海外参加者：女子

キャンプファイヤーでは海外の参加者だけでなく、県内外の参加者と一生の友情を誓い合った。最後はダンスをして海外の参加者との絆がより深まったと思います。言葉は通じなくてもダンスと歌は世界共通で盛り上がる手段であることを学びました。OG・OBの先輩方にとっても感謝しています。

県内参加者：男子



学習プログラム5日目(スケジュール)

■ [5日目] 8月4日(木)

実施内容： ● 平和祈念資料館見学 ● ひめゆり平和祈念資料館見学
● 県立博物館見学

- 08:00 出発～途中中城インターにてトイレ休憩～
- 10:00 戦争記録フィルム上映
- 10:15 平和祈念資料館見学
- 11:00 平和の礎見学
- 11:45 昼食(優美堂)
- 12:30 ひめゆり平和祈念資料館見学
- 13:00 平和構築構築ワークショップ
- 15:00 ひめゆり平和祈念資料館出発
- 16:00 沖縄県立博物館見学
- 17:00 沖縄県立博物館出発
- 17:15 ホテル到着
- 18:30 夕食
- 19:30 エイサー講習
- 21:00 スタッフミーティング
- 22:00 就寝

平和祈念資料館見学 10:15～11:00

●目的

住民による数々の証言を中心に、明治から祖国復帰までを解説パネル、映像、写真、実物資料などを読み取り、沖縄戦だけでなく、当時の社会背景や歴史を学ぶ。

●実施内容

資料館で沖縄の戦争の映像を観賞。戦争に関する展示資料を見て読んで歴史を学ぶ。

●結果

沖縄でこういった戦争が起きたのか知った参加者たちの中には涙を流している姿もあった。戦争に対して真剣に考え、今後彼らに戦争の歴史が受け継がれていく。平和の礎は天気に恵まれず、足を運ぶことができなかった。

●参加者の感想

沖縄の戦い、戦争の間に起きた本当のことを聞くことができたことは、多くの物事のなぜ？を理解させてくれた。同時に、さらに沖縄を好きにさせ、もっとその歴史を知り、学びたいと思った。

海外参加者：女子



ひめゆり平和祈念資料館見学 12:30～13:00

講師：島袋椒子・古賀徳子・普天間朝佳

●目的

ひめゆり学徒隊の証言映像や手記などを通してひめゆり学徒の戦争体験を知り、沖縄戦の悲惨さや平和の尊さを学ぶ。

●実施内容

DVDのアニメ「ひめゆり」を観賞。
看護要員として戦場に動員されたひめゆり学徒隊の概要の展示物を見て時代の背景を感じ取る。
ひめゆり平和祈念資料館の館長であり、元ひめゆり学徒隊だった島袋椒子さんの実際の体験談を直接聞き、戦争を恐ろしさを学ぶ。
グループに分かれ戦争について討論しグループ発表をする。

●結果

参加者全員が真剣な顔で戦争に向き合う姿勢が見えた。これから平和を維持するためにはどうするのか参加者全員で考えることができた。

●参加者の感想

沖縄戦の原因や影響について学び、これから先の平和について僕はとても考えさせられました。現在の平和な世界を維持することと次世代に伝えることは僕ら若い人たちの使命だと思います。
海外参加者：男子



学習プログラム5日目

沖縄県立博物館見学 16:00～17:00

●目的

沖縄の自然から歴史や文化を「海洋性」と「島嶼性」からわかりやすく解説している。特に歴史については豊富な資料を展示している、古代から近代（戦後復興から現在）までが

●実施内容

博物館に展示してある展示物を観覧し、時代の背景や沖縄の歴史を読み取る。

●結果

時間の都合上、博物館の見学は短くなったが参加者たちは展示物を真剣に読み取っている姿があり歴史を学んだ。



●参加者の感想

沖縄の歩みを形として見る事ができた。昔からの文化が今現在でも受け継がれていることにスゴイと感じた。

県内参加者：女子



学習プログラム6日目(スケジュール)

■ [6日目] 8月5日(金)

実施内容： ● 移民学習(ワークショップ)
● 講演(世界のウチナーンチュ大会について)

09:00	移民・移住学習②～ロイヤルオリオン 曙の間～
12:00	昼食
13:00	移民・移住学習まとめ
14:00	講演：世界のウチナーンチュ大会について ～講師：知念英信さん～
16:30	エイサー講習
18:30	夕食
19:30	一日の振り返り
21:00	スタッフミーティング
22:00	就寝

学習プログラム6日目

移民・移住学習② 9:00～12:00 講師：大仲るみ子・上原真紀

●目的

事業初日に実施した移民・移住学習を踏まえ、翌日の報告会にて学習の成果を発表するため、より踏み込んだ内容の学習を行う。フォトランゲージやムービーランゲージで学んだ当時の生活や状況を垣間見ることによってウチナンチュの生き方を学び、海外参加者との様々な意見交換を経て、お互いの気持ちを知り、沖縄における多文化共生を理解し提言としてまとめる。



●実施内容

グループに分かれ、NGOセンターの方から出されたお題について意見を出し合っ、グループのまとまった答えを発表。初日のワークショップで「わたしは何人？」というワークシートを改めて書いてもらった。ツアーの中で自分のルーツは何人なのか気づく。



●結果

ツアー初日のワークショップと同じワークシートには全く違う答えを記入する海外参加者がいた。このツアーを通して、沖縄の歴史を学んだり、参加者とコミュニケーションを図って同じ時間を共に過ごしている間に「私はウチナンチュであり、ルーツが沖縄」と気づいた海外参加者が多数いた。

講演：世界のウチナンチュ大会について 14:00～16:30 講師：知念英信

●目的

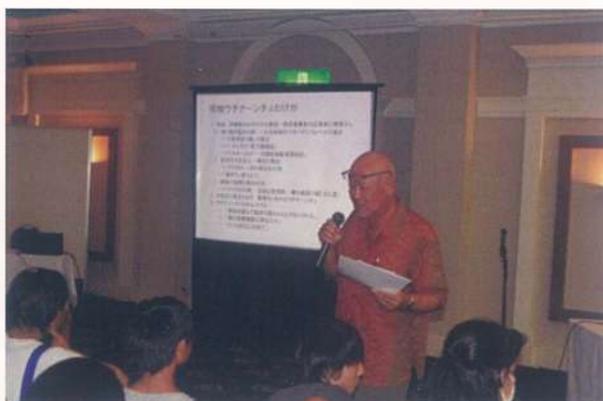
何故ウチナンチュ大会が開催されるのか？
ウチナンチュ大会を通して海外県系人とウチナンチュの関わりがどう変わったのか？
今後どうウチナンチュ大会と関わっていくのか？
参加全員がウチナンチュ大会を意識し、次回沖縄での再会を誓う意識を高めるため。

●実施内容

10月に開催される「第6回の世界のウチナンチュ大会」を見据え、長く深く大会に貢献された知念英信氏による講演を開いた。
講演後には海外参加者2人が三線を弾き、参加者全員で沖縄の歌を歌った。

●結果

世界のウチナンチュ大会の歴史を聞き、イベントに「ウチナンチュ」として参加したいと意欲が出たと参加者が話した。
ウチナンチュは県内だけでなく海外で活躍している人もいることに誇りを感じた。



学習プログラム7日目(スケジュール)

■ [7日目] 8月6日(土)

**実施内容： ● 報告会 ● 修了式 ● さよならパーティー
● 一万人エイサーイベント**

- 09:00 出発～ゆいレールでタイムスホールへ～
- 10:00 リハーサル
- 12:00 昼食
- 12:30 来賓・一般参加者受付
- 13:00 修了式及び報告会
- 15:00 修了式終了
- 15:10 さよならパーティー準備
- 15:20 さよならパーティー開始
- 17:30 さよならパーティー終了～パレット久茂地へ移動～
- 17:45 エイサー演舞
- 18:00 修了解散

学習プログラム7日目

報告会 13:00~14:20

●目的

1週間にわたるウチナージュニアスタディーに参加してウチナーンチュとしてのアイデンティティや将来沖縄とどうかかわっていくかなど、参加者全員が感想を発表することにより、お互いがどう考え、今後どう交流していくかを理解する。

●実施内容

この1週間ウチナージュニアスタディーを通しての感想を参加者全員が日本語で発表する。

●結果

参加者全員がツアーの感想を日本語で自分の気持ちを伝えた。途中から感情が高ぶり泣き出し、言葉と詰まらせなかなか感想が述べられなかった。しかし他の参加者からの「がんばれ」と掛け声をもらい、会場内は感動でいっぱいとなり“絆”というものが見れた。



修了式 14:20~15:00

●目的

修了証書・ジュニア大使認定書を授与することにより、1人1人が今後沖縄と世界を結ぶ架け橋的存在になる。

●実施内容

主催者挨拶：沖縄県文化スポーツ統括監 照喜名 一
海外参加者にジュニア大使認定書授与
県内参加者・県外参加者に修了証書授与
青年リーダーに感謝状授与

●結果

修了書を受け取った参加者は笑みを浮かべ、証書の内容を読んでいる姿が見れた。



学習プログラム7日目

さよならパーティー 15:20～17:30

●目的

海外参加者による余興。各国の参加者が母国の伝統芸能を披露したり、母国でのエイサー演舞を参加者・来賓の方たちの前で披露する。

●実施内容

海外参加者が各国の文化のダンスであったり、歌を披露した。
最後は参加者・ボランティア・スタッフ全員で舞台上でカチャーシーをして締めくくった。

●結果

海外参加者はツアーの時には見せなかった表情をしてダンスなどを披露した。県内参加者は他国の文化を見て、とても興味津々だった。



エイサー演舞 17:45～18:00

場所：パレット久茂地前広場

●実施内容

さよならパーティー終了後、タイムスホールからパレット久茂地前広場に移動し、1万人エイサーのイベントで多くの観客の前にしてエイサーを披露した。

●結果

海外参加者は「エイサーの聖地」でエイサーできることに誇りを持ち、中には涙を流す参加者もいた。ツアー中ずっと付きっきりでエイサーの講師の佐久田氏に対して、リーダー代表がメッセージを送り、参加者全員で8カ国語で「ありがとう」を伝え、ウチナージュニアスターを締めくくった。最後に参加者全員が涙を出しながら強く抱擁を交わし、パレット久茂地前広場は感動の渦を巻いた。



さよならパーティー式次第

日時：平成28年8月31日（土）15:20～17:
場所：タイムスホール

15:20	開会	司会：ジュニアスタディーツアー卒業生
15:22	乾杯の音頭	沖縄カナダ協会会長 大山 盛稔
	食事	
15:50	余興(開始)	
15:50	ボリビアダンス	健・文音・メリサ(ボリビア)
16:00	アルゼンチンダンス	ルーカス・ルシア(アルゼンチン)
16:10	韓国ラップ	宋兄弟(韓国)
16:15	メキシコダンス	ハツミ(メキシコ)
16:25	ブラジルダンス	ケンゾウ・スエコ・サユリ(ブラジル)
16:35	ペルーダンス	ニコル・アイミ・カオリ(ペルー)
16:45	エイサー	瑛・日向(アメリカ・カナダ)
16:55	歌	真理・モナ(ドイツ・マレーシア)
17:00	カップダンス	アメリカ・カナダ参加者
17:05	カチャーシー	参加者全員

エイサー講習

●日時・場所

8月1日	19:00~20:00	かりゆしアーバンシェルホール
8月2日	19:30~21:00	つつじエコパーク管理棟広場
8月3日	15:00~16:30	つつじエコパーク管理棟広場
8月4日	19:30~20:30	さいおんスクエア前広場
8月5日	16:30~18:00	ロイヤルオリオン曙の間
8月6日	16:45~17:00	さよならパーティー

●実施内容

沖縄ではもちろん、県外・海外でも人気の高い琉球國祭り太鼓のメンバーによるエイサー講習を実施。モノではなくエイサーという沖縄の伝統芸能をお土産として持ち帰る。

最終日の学習成果発表会では全員でエイサーを披露するという目標を掲げ、エイサー衣装・パーランクーをプレゼントした。

●結果

講師を務めた琉球國祭り太鼓所属の佐久田瞬香氏はツアー前は1週間という短時間で2曲のエイサーを覚えてくれるか心配していたが参加者全員のエイサーの覚えるスピードが早くて優秀だった。と話していた。



見送り

日時：8月7日(日) 7:00~19:00

場所：那覇空港



朝早くから見送りするため多くの県内参加者の姿があった。UJSのTシャツに寄せ書きを書くシーンや笑顔で会話するシーン、お互い涙を流して強く抱擁するシーンがあった。ツアー1週間で強い絆になり、再会を誓い合った彼らにとっては人生の中で、とても濃い時間となった。

ボランティア事前打ち合わせ

日時：5月28日(土) 13:30~17:00

場所：サン・エージェンシー会議室

●目的

事前学習・ツアーが行う前に過去参加者であるボランティアスタッフミーティングを開き、ボランティアスタッフがツアーの中で加わるシーンで参加者が楽しめるような充実したプログラム作りをする。

●実施内容

今回ツアーに参加できる過去参加者を集めボランティアミーティングを開いた。

- ①事前学習の計画(ダンス・ゲーム・景品)
- ②マチグッー散策ルートの作成・案内方法
- ③交流プログラム(ダンス・ゲーム・景品)
- ④キャンプファイヤーのプログラム(ゲーム・役割)
- ⑤修了式(役割)
- ⑥ボランティア名簿作成

●結果

彼らは事業に参加経験もあり、何度も事業のボランティアをおこなってきたため、多数の意見が出てスムーズにまとまった。

参加者が楽しめるようなプログラムを完成できた。



世界のウチナンチュ大会(開会宣言)

日時：8月19日(金)・8月25日(木)・
8月28日(日)・9月13日(火) 17:00~20:00
場所：サン・エージェンシー会議室

●目的

第6回世界のウチナンチュ大会の開会宣言の演出を作成する。

●実施内容

開会式の仕切るインプレスト社長とリーダー6人が集まって、開会宣言をどう進めていくのか計画を立て、全て開会宣言の内容などはリーダー6人に作成。

海外参加者も動画を利用し、「世界のウチナンチュ大会」に出演させる

●結果

リーダーたちは打合せを計5回開き、やり取りをLINEグループで活用して着々と開会宣言の内容を固めていった。またツアーによって深めた絆によって「言葉」と「時差」という壁をなくし、海外参加者から動画を取得できた。



日時：9月23日(金) 17:00~21:00
場所：サン・エージェンシー会議室

●目的

世界のウチナンチュ大会のオープニングで起用されるウェルカムコメントの撮影。

●実施内容

開会宣言の後に会場の大型ビジョンで流れるオープニング映像の中で各国の言葉での挨拶シーンがあるため県内参加者を集めて撮影をおこなった。

●結果

県内参加者全員が集まって、久しぶりに再会し、ツアー中の話や受験の話を楽しく会話している姿が見受けられた。

撮影も無事終了し、世界のウチナンチュ大会の開会式に向け準備が整った。



世界のウチナーンチュ大会(開会宣言)

日時：日時：10月27日(木) 17:00~17:05
場所：沖縄セルラースタジアム

●開会宣言文

- ①いまここに集まった私達はウチナーンチュ。
国境なんて関係ない。
沖縄への強い郷土愛、沖縄の魅力を感じ、
誇りをもった私達はウチナーンチュ。
- ②来てくれてありがとう。
出会ってくれてありがとう。
人と人を繋げてありがとう。
そして、沖縄を忘れず、愛してくれてありがとう。
- ③笑顔は世界共通！笑顔は“楽しい”を共有できる。
相手への愛が素直に伝わる唯一の手段だ。
ここ沖縄を、そして世界を、笑顔溢れる場所にしてほしい。
- ④私達はゆいまーるの精神を持っている。
海を越えて心と心で繋がっている。
沖縄でしか築けない絆を築いていこう。
- ⑤今ある沖縄がこれからも続いてより良い未来になるよう
沖縄から世界へ、世界から沖縄へ。
ここに集まったみんな、
そして私達が沖縄と世界を結ぶ架け橋になりたい！なります！なりましょう！
- ⑥ここにいる皆さんはお互い、ちょーで一。一度あつたら皆兄弟。
この精神を忘れずにウチナーンチュ大会を盛り上げていきましょう！
- ⑦「ウチナーの」「躍動」「感動」「世界へ響け！」
「第6回」「世界のウチナーンチュ大会」
- ⑧県内参加者全員で「開幕!!!」



世界のウチナンチュ大会(ウチナージュニアスタディーブース)

日時：日時：10月27日(木)～10月30日(日)
場所：沖縄セルラーパーク



●目的

世界のウチナンチュ大会を開催するあたって、海外から多くのウチナンチュが帰省する。その中には過去にウチナージュニアスタディーに参加した人たちもいる。海外の過去参加者を迎えるためにセルラーパークにブースを設置する。

●実施内容

ジュニアスタディー過去参加者が集まれるようにブースを設置した。ブースに訪れた過去参加者には飲み物をプレゼントし、顔写真の入ったA4用紙にコメントを書いてもらいブースの壁に貼った。



●結果

海外から多くのウチナージュニアスタディー過去参加者がブースに遊びに来てくれて県内参加者と何年振りかの再会をして楽しく会話していた。「あのときにウチナージュニアスタディーに参加して本当に良かった」という言葉をブース内で何回か聞いた。

●右の写真

世界のウチナンチュ大会の最終日にはブースの壁一面が過去参加者や今年の参加者はもちろんのこと、県職員・海外の引率・通訳といった関係者のコメントでいっぱいとなった。これほどウチナージュニアスタディーという事業は愛されて、とても意味のある事業であると感じ取れる。



おきなわ国際協力・交流フェスティバル2016

日時：11月19日(土) 10:00～17:00
11月20日(日) 10:00～16:00
場所：JICA沖縄国際センター

●展示内容

今年の参加者が制作したウチナージュニアスタディーの展示物をJICA沖縄国際センター1階の沖縄県ブースで展示した。今年のウチナージュニアスタディーの思い出の写真を貼り付けて、とても楽しく交流をできたと表現。





平敷 雅(14)

Miyabi Heshiki

金城中学校3年生

私は7月31日から8月6日の7日間、ウチナージュニアスタディー国際交流プログラムに参加し、とても充実した素晴らしい体験させていただきました。私達と同世代の海外のウチナーンチュの二世、三世、四世達と寝食を共にし、沖縄の自然、歴史、文化について学び、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーを再確認することができました。

海外参加者の国の県人会の話聞き、どの国の県人会も沖縄の事を忘れないよう、伝統芸能であるエイサーや三線、琉舞の継承、沖縄の行事や祭りを行っているというところに郷土愛の大きさを感じました。

コミュニケーションをとっていくうちに海外参加者の国で何をしているのか知りたいと思うようになりました。また、相手と自分の共通点探しをしました。

日を重ねるにつれ、みんなとの仲が深まっていき、冗談を言い合って笑い転げる日々を過ごしました。互いに親しくなれば親しくなるほど、一日一日がとても濃く、とても短いと感じました。

プログラムの中で沖縄の戦争について学ぶ機会がありました。『平和祈念資料館』・『ひめゆり平和祈念資料館』を見学に行き改めて戦争の悲惨さと恐ろしさ知りました。ワークショップではアメリカと日本では戦争の捉え方や歴史での教え方が違って興味深かったです。国際交流を通して国ごとの考えの違いや、たくさんの意見等にふれることにより、今までの自分の考えに新しい考えが付け加えられたり、時には、固定概念を崩されるような考えが出てくるかもしれないと思いました。私がプログラムを通して身をもって感じたことです。

首里城では、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーの原点を身近に感じたり、首里城正殿は、中国と日本と沖縄の三つの文化を合わせ持った『ちゃんぷるー文化』の象徴であるという事を初めて知りました。私は、『ちゃんぷるー文化』は、海外参加者と私達そのものであることに気づきました。沖縄と外国の文化が出会い、そこからコミュニケーションや友情が生まれ新しい文化が創られていくのだと実感しました。

プログラムで多くの素晴らしい体験を通し、今まで知らなかった沖縄を見て、私の世界に対しての視野を広げてくれました。海外参加者・県外参加者とは、世界各地へ離ればなれになってしまいましたが、『いちゃりばちょーでー』の精神でつながっています。みんなと出会えたことに感謝し、今回のプログラムで覚えた言葉で締めくくりたいと思います。

『いっぺーにふえーでーびる』

『ありがとうございました』

『Thank-you very much』

『Mutio obrigada』

『Muchas gracias』

『Terima k ashi』

『カムサハムニダ』

『Vielen dank』



城間 魁生(13)

Kaito Shiroma

寄宮中学校2年生

UJSに参加した一週間は僕にとってかけがえのないものになりました。毎日が初めての体験でとても充実していました。学ぶこと・遊ぶことを全力でやり通せたと思います。学んだり、遊んだりしていくうちに、僕の知らない沖縄が見られた事に驚き、それと同時に海外メンバーが知ってて自分が知らない情報などもたくさんあり、ウチナーンチュなのに知らなかったことの多さに恥ずかしくなりました。また、この事業を通して「ウチナーンチュは沖縄県民だけじゃないんだ」という事にも気づかされました。

僕自身UJSに参加して変わった事が2つあります。1つ目は、人見知りをしなくなった事です。今まで初対面の人と仲良くなるのに時間がかかりかかった僕がこうして今、誰にでも積極的に話しかけられるようになったのは、UJS16期メンバーとOBOGのおかげだと思います。僕はいつもガキみたいに騒いでいたのを呆れずに接してくれたメンバーと僕の事をよくイジってくれたOBOGにはとても感謝しています。そしてメンバーみんなの母国の言葉で、チューターさんを通さずに今回の感謝や、もっとみんなと1対1で話せるようにスペイン語やポルトガル語、韓国語、英語などを勉強してみんなの国や住んでいるところに遊びに行くこと決めました。

2つ目は、沖縄について今まで以上に興味が湧いてきて、この体験を通して感じられた沖縄の素晴らしさや、沖縄の世界に誇れるもの、沖縄の全てを内地や海外、沖縄の人にも伝えていきたいなと思いました。そのためにも苦手な勉強をもっと頑張ります。

最後に僕がこのツアーを最初から最後まで楽しく過ごせたのもメンバー全員が優しく接してくれて、こんな俺を受け入れてくれたからだと思っています。みんなと出会えた事に感謝し、これからを過ごしていきたいと思っています。僕達時代の事業はこれで今年で終わりですが、僕達は“イチャリバチョーデー”で心の中でしっかり繋がっているので僕達の絆や団結は永久に不滅です。

スタッフ、ボランティアのみなさん、事業に関わってくれた全ての方のお陰で少しばかりですが、成長する事が出来ました。本当にありがとうございました。



市場 優香(14)

Yuka Ichiba

普天間中学校3年生

私は両親が沖縄出身ではないため、沖縄の文化などについて学ぶ機会が少なく、以前から、もっと沖縄について学びたいと思っていました。このウチナージュニアスタディーのことを知ったとき、沖縄について学べる良いチャンスだと思い応募しました。参加できることが決まったとき、「楽しみ」という気持ちでいっぱいでしたが、いざ当日になると、少し人見知りの性格からか、事前学習で皆とあまり打ち解けられず、本番の一週間「私はちゃんとやっていけるかな？」と不安がありました。しかし、参加者は私を仲間に入れてくれて、海外から来た人も言葉が通じなくても何とかコミュニケーションを取ろうと一生懸命話しかけてくれて嬉しかったです。初めは不安だった一週間も過ぎてしまえば、あっという間で、楽しく充実した一週間でした。

この一週間で、改めて沖縄の文化、伝統、歴史に触れ、私の住んでいる沖縄をもっと好きになりました。初めて行った首里城で琉球の歴史について学んだり、私の知らない那覇の街を散策したり、東村で沖縄の自然に触れたり、平和祈念公園やひめゆり平和祈念資料館で沖縄戦について学んだり、移民・移住について学んだりと沖縄の色々なことを学ぶことができました。

また、この一週間皆と過ごして積極的に行動する姿勢や異なる国籍・言語の人達とのコミュニケーションの取り方も学ぶことができました。今回は、初対面の人にあまり話しかけられませんでした。今後はいろいろな人に積極的に話しかけ、どんどん知り合いを増やしていきたいです。

最後に、一生の思い出となる一週間で過ごすことができ、楽しかったです。このような場を提供して下さったスタッフの皆さん、ボランティアの皆さん、そして、この一週間行動を共にした43名の皆さん、本当にありがとうございました。



島尻 和慶(13)

Kazuyoshi Shimajiri

石垣第二中学校2年生

僕はこのウチナージュニアスタディー事業に参加してより沖縄について知ることができ、世界のウチナーンチュと繋がることができ、さらに多くの友人を作ることができました。この経験は僕の宝物です。

このプログラムに参加して様々なことを経験し学ぶことができました。川でのトレッキングやキャンプファイヤー、みんなで踊ったり、海外の人とおしゃべりをしたりしたことです。また、世界にウチナーンチュが多くいること、沖縄戦や沖縄の歴史について、世界ウチナーンチュ大会について学びました。普段の生活の中では、体験できないようなことを体験できたりして、人生で初めての経験することが多かったです。

ひめゆりの塔に行き戦争について学んだあとにグループで話をする場がありました。その時に“アメリカと日本の教育の違い”に気づいたりして、いろいろな国の人たちの考えを知ることができました。例えば戦争についての教え方が真逆であることや日本人は、アメリカ人は怖い人が多いと思っている人が少なからずいるけれどアメリカ人はその逆だということを聞いてとても驚きました。このような様々な考え方を知ることができて良かったです。

このプログラムに参加しようと思ったきっかけは将来留学に行きたいと思い、そのためには自分が住んでいる沖縄について知るべきだと思ったからです。その目標を一つクリアすることができました。また、この短い期間でみんなと仲良くなることができてとても嬉しいです。ここで学んだことや友達を忘れずにしていきたいです。このプログラムは終わってしまったけれどSNSやラインなど利用し繋がり続け連絡を取り合っていきたいです。将来は沖縄に貢献できる人になって再びこのツアーに参加したいです。



金城 未来(16)

Miki Kinjo

開邦高等学校2年生

私は、ウチナージュニアスタディーに参加することができ非常に良かったと心から思います。かけがえのない素晴らしい仲間達と出会うことができたのも、この事業のおかげです。ウチナージュニアスタディーの一週間で、私は一生の宝物となる思い出をたくさんつくることができました。マチグワー散策では、沖縄の台所とも言える平和通りを海外参加者と歩くことで、新しい発見がたくさんありました。首里城見学では、実際にガイドさんの話を聞くことで初めて知ることも多く、改めて自分がウチナーンチュであることを実感することができました。そして、自然を通した海や川でのアクティビティや美ら海水族館見学。沖縄の誇りである美しい海では、仲間とともにバナナボートやバレーボールなどを楽しむことができました。川歩きでは、言語の壁を越え、海外参加者とともに協力しながら、川を泳いだりすることで、絆を深めることができ、本当に良かったです。この一週間、本当に様々な経験をしましたが、その中でも1番印象に残っていることがあります。それは、平和学習です。実際に戦争体験者の話を聞くことで、戦争の恐ろしさや平和の大切さを身を持って感じるすることができました。また、グループ学習では、日本と外国の違いを実感する場面がありました。それは、原爆の話になったとき。日本とアメリカの原爆に対する考え方も、平和教育の仕方も違うことに、驚き、国が違えば考え方も違うことを実感させられました。私は、この一週間で自分自身を大きく成長させる事ができた反面、沖縄に対する思いが海外参加者の方が大きいことを知り、自身が情けなく感じました。沖縄についてより学び、その魅力を世界に発信していくことが沖縄に住んでいるウチナーンチュとしての役目であると思います。言語の壁を越えて、交流した仲間との繋がりを大切にしていき、今回学んだ経験は、今後の生活に活かしていきたいと思います。



赤嶺 未夢(17)

Miyu Akamine

豊見城南高等学校3年生

私は、今回ウチナージュニアスタディー事業に参加する際に学校からの参加者は私だけで、事前学習では知り合いがいない中、友達ができるか馴染めていけるかすごく不安で行きたくなかったのを覚えています。ですが、事前学習をしているうちに県内参加者は全員が個性溢れるメンバーで海外・県外参加者を迎えるのがすごく楽しみでした。ウチナージュニアスタディーが始まり、初日にリーダーに任命されこの一週間で私自身の考えなどが変わりました。みんな国籍も言語も違うなかで、必死に自分なりの考えや意見を伝えたり私の指示をまって聞いてくれたりなど、私が任された仕事の責任感の重さや、他人の意見をまとめる力の大切さを感じました。

またプログラムは、共に沖縄の自然や伝統・移民の歴史と多くのことを体験をし、今まで以上に、よりウチナーンチュとしての意識を深めることができました。海外参加者の方は、私より沖縄のことを理解し、伝統芸能であるエイサーや三線などに親しんでいました。同じ伝統芸能をやっている身として、海を越えて沖縄の文化がある。そして、その文化を継承している若い世代が海外にもいると身近に感じることができました。また、一週間生活を共にすることで異文化を理解し英語とコミュニケーションを取ることの大切さ、言葉の壁はあれど音楽が流れれば踊りだしたり、笑顔の大切さを知ることができました。ジュニアのメンバーと過ごしたこの7日間は、私の一生の思い出であり宝物です。このような事業を企画してくれた沖縄県に感謝し、ここで得たたくさんの知識は今後の私を成長させていきます。1人のウチナーンチュ、ウチナージュニアスタディー参加者としての誇りを忘れません。



波平 みなこ(17)

Minako Namihira

向陽高等学校3年生

この事業に参加し、ウチナンチュの地元を愛する心や繋がりの強さを実感することができました。

参加者同士の仲が良いのはもちろんのこと、OG・OBの先輩や事業に携わった大人の方々と交流が深まりました。ウチナンチュは横にも縦にも広い繋がりを作ることができ、これが「いちゃりばちょーでー」、ウチナンチュのアイデンティティなのだと感じました。言葉の壁があっても、歌と踊りと笑いがあれば仲良くなれるというのがウチナンチュの良さだと思います。世代や国を越えてまで沖縄を愛する心は、とても素晴らしいものだと感じました。

また、エイサーや三線、舞踊などがこんなにも広まっているとは思っていませんでした、とても驚きました。沖縄の伝統芸能は世界に誇れるものだと思います。

さらに、1週間様々な場所で過ごし、自然や街、伝統、歴史などを学び、自分がまだまだ沖縄の事を知らなかったことに気づき、もっと沖縄の良さを見つけて地元の人たちや県外、海外の人たちに発信していきたいと思いました。他国の話を聞くことで日本や沖縄の課題も発見できたので、今後どのようにしていけばいいのか考えていきたいです。

この事業を通して最も感じたのは、出会いの素晴らしさです。海外、県外、県内でたくさんのネットワークが出来ました。様々な国の文化や価値観などを知ることで良い刺激になり、視野が広がったと思います。

この事業での出会いを大切に、私も将来は沖縄と他国を繋ぐような世界のウチナンチュになることを目指します。



安次嶺 佳澄(17)

Kasumi Ashimine

向陽高等学校3年生

大きくなるにつれて“沖縄”について考えさせられたり、聞かれたりすることが多くなってきた。「沖縄をもっと知らなきゃいけない。」そう思ったのがキッカケで、この事業に参加したいと思いました。ウチナージュニアスタディーに参加して一番衝撃を受けたのが、県内参加者よりも海外参加者の方が“沖縄への愛が強い”ということだった。海外の人がエイサーを教えていたり、方言を堂々と使っていたり、海外の国で沖縄の祭りをしていると知った。特に印象に残ったのは平和学習だった。県内参加者よりも真剣に沖縄の未来、世界の未来を考え、自分の意見をしっかり持っていた。それには衝撃しかなかった。海外参加者は自分の国と同じくらい沖縄を愛して誇りを持っている感じがしました。誇りを持つことって大事だと思い、自分もウチナージュニアスタディーに参加して誇りを持てました。移民ということをちゃんと知らなかったため、「沖縄」で繋がっていると知って今まで関係ないと思っていた国が一気に近くなった気がした。正直、ボリビアとか全くわからない国もあった。しかしウチナージュニアスタディー参加してから一番行きたい国が変わった。また皆がどんな風に沖縄の祭りとかイベントとかしているのか、実際に見に行きたいと思い、スペイン語と英語頑張りたいと思いました。学校の友達にも「世界に実は兄弟がいる！」と教えてあげたい。もっと移民のことや沢山の人の知ってもらえれば、外国人ではなく「ウチナーンチュ」としてもっと絆深まるだろうし、海外でも沖縄が愛されていると知ればウチナーンチュも誇りをさらに持つだろうって思いました。ウチナージュニアスタディーが一週間のプログラムではなく、学校でもウチナージュニアスタディーのようなプログラムを実施ほしいと思いました。もっと沖縄のことを私たちウチナーンチュが知るべきだと思いました。

プログラム終わって海外参加者や県外参加者の見送りの時に空港の売り物のオリオンビールの雑貨や海人Tシャツ見て、かわいいと思いました。もしかしたらウチナージュニアスタディーを通して沖縄のことがさらに好きになったのかもしれない。こういった部分が「一番大きな私の中での変化かな」と感じました。

最後にもっと沖縄のことを知って、いつかは世界と沖縄を繋げる架け橋になりたい。



網敷 美南海(17)

Minami Amishiki

向陽高等学校3年生

ウチナージュニアスタディーに参加した1週間は今までの人生で過ごしてきたどの1週間よりも濃くて忘れられないものになりました。1日目に行われた各国の自国紹介では海外にたくさんの県人会が存在し、沖縄の伝統を守るため、精力的に活動していることを知りました。また、沖縄に来てからも県内参加者から積極的に日本語を学んだり、外国人とは思えないほど上手にエイサーを踊っている姿を見ると、世界中に沖縄があるような嬉しい気持ちになった反面、沖縄に住んでいながら沖縄についてあまりにも無知で、沖縄の文化を学び、受け継ぐことに貪欲だった自分がウチナーンチュと名乗っていることがとても恥ずかしくなりました。海外参加者はみんなウチナーンチュとしての誇りをもっていて自分の中に強い「沖縄」を持っている感じがしました。

平和記念公園で沖縄戦について学んだ時、たくさんの資料を見ながら涙を流した海外参加者の友達がありました。その時、沖縄戦について学ぶことに慣れてしまっていた自分に驚き、また自分の故郷のこととして真剣に考え、悲しんでいたこの友人に対してとても温かい気持ちになりました。

沖縄戦について「自分の国で教えられたのと少し違う。」と言ったアメリカ人の友人の言葉から、なんでも日本の視点から見て学んだつもりになってはいけない。他国ではどのように考えられて教育されているのか知るべきだと気づかされました。外国での考え方や教育に始めて興味をもち、学んでみたいと思いました。

やはり最初は言葉の壁がとても大きかったけど、一緒に生活していく中で、ダンスと笑顔は世界中の人がみんな一瞬で楽しい気持ちになれる手段だということにも気づかされました。この1週間で得たことがたくさんあります。私は私のウチナーンチュとしてのアイデンティティを確固たるものにできました。

これから、ジュニアスタディーで得たウチナーンチュとしてのアイデンティティと海外に住むたくさんの家族たちを自分の中の強い軸として、将来の夢を叶えます。将来は発展途上国で働く看護師になりたいです。



知念 小南美(17)

Konami Chinen

向陽高等学校3年生

私がこの一週間のウチナージュニアスタディーで学んだことは二つあります。

まず一つ目は、英語が話せなくても海外の人とコミュニケーションを取ることができるという事です。ウチナージュニアスタディーでも一日目の最初はみんなぎこちなく海外参加者ともなかなか話せない感じでした。しかしワークショップやグループ活動していくうちにだんだんと話せるようになっていました。英語がちゃんと話せなくても単語を言ってみたり、ジェスチャーを交えてみたりすると、相手も理解しようとしてくれたのでなんとか意思の疎通ができました。私は今まで英語ができなければ海外の人と話すことができないと思い込んでいました。しかしこのプログラムを通して英語が話せなくてもコミュニケーションは取れるんだということ学びました。

二つ目はウチナーンチュみんなでつながることができるということです。沖縄の歴史や文化、自然について一緒に学び、考え、共有し合うことができ、沖縄ルーツに持つというだけで話す言語や国籍が異なるのにこんなにも仲良くなれるということに私はとても感動しました。

このウチナージュニアスタディーで学んだ事を今後どのように活かしていくかは正直わかりません。これから活かせる道を模索しつつ、このプログラムでのつながりを大切にしていきたいです。



伊集 まりな(17)

Marina Iju

向陽高等学校3年生

UJS事業は「沖縄」を強く感じた一週間でした。海外、県外参加者は沖縄本土に住んでいる私たちよりもウチナーンチュで、エイサーや伝統舞踊が当たり前のように踊れることに驚きました。「沖縄のことが好き」と強く伝わってきました。海外の人達とコミュニケーションをとることに始めは期待よりも不安の方が大きかったです。言葉が通じなかったり、笑いの焦点が合わなかったり、何か共通する趣味を見つけようと思ってもなかなかみつけれなかったり、1番最初のグループワークはとても気まずい雰囲気でした。ですが、一緒に過ごすうちにそれぞれで共通する趣味を見つけることができました。私が思うに、1番みんなに共通してたものは音楽でした。移動中のバスの中で合唱した記憶はいい思い出です。邦楽・洋楽・K-POP・ラップといったジャンルは違えど、国は違えど、やはり「同年代であるので楽しめるものは同じなんだな」と面白く思いました。UJS事業を通してボランティアのみなさんやスタッフのみなさんなどとかげがえのない人脈を広げることができ、何より世界中に友達がいるんだという自慢ができるようになりました。

この事業のおかげで「沖縄」をもっと感じたいと思ったので、今は琉球大学国際学部琉球アジア文化専攻に進学することを目指して勉強に励んでいます。また、高校卒業後は事業に関わった全ての国を訪ねるという目標もできました。今後もボランティア等を通してUJS事業に関わっていきたいです。



石川 勇人(17)

Yuto Ishikawa

那覇国際高等学校3年生

私はこの一週間、1つのことについて考えていました。それは言葉の壁をどうやって乗り越えるかってことです。住む環境も違えば国によって価値観の捉え方が違う...10カ国からくる同世代の仲間達と私はどう過ごすのだろうと思っていました。

私は素晴らしい仲間達と出会う前から1つだけ決めていたことがあります。それはウチナージュニアスタディーで学んだことを海外参加者に“形”で伝えたいということです。様々な思いで沖縄に来る参加者達に、ここで学んだたくさんのことを母国に持ち帰って、自分の言葉で沖縄の素晴らしさを伝えて欲しいという願いがありました。世界には自分たちがまだ出会っていない日系移民の人たちがたくさんいるということ...その人達に本当の故郷「沖縄」という地の人の温かさを忘れないで欲しい。その一心で国内参加者みんなで力を合わせて頑張りました。

事業中は本当にあっという間で、自分の思った以上に沖縄に関心を抱く海外参加者に圧倒されたことが一番の印象です。7日間過ごす中で、やはり彼らの本当の故郷は沖縄なんだと実感させられました。初め私が気にしていた言葉の壁は研修が終わる頃にはプラスのイメージを持つようになっていて、今では言葉の壁があったからこそ仲間と絆ができ、7日間という短い間でお互いを心友と思える仲間に出会えたこと、イチャリバチョーデー精神を持たた大きなきっかけです。

世界のどこにいようとウチナーンチュとしての心は一緒。自分もウチナーンチュの心を大切にして再会を願って頑張ります。この機会をくれた多くの方々に感謝します。



外間 奈々子(16)

Nanako Hokama

那覇国際高等学校2年生

私は、ウチナージュニアスタディーという事業に参加にしてたくさんの思い出が作れました。10カ国から沖縄にルーツを持つ参加者たちと一緒に、海や山に行ってレジャーを楽しんだり、キャンプファイヤーやBBQをしたり、パーティーをしたりバイキングで満腹になるまで食べまくったりして充実感たっぷりの1週間でした。移民や沖縄戦について学ぶためにディスカッションや講義を受けたりして学校で習うこととはまた別で大切なことをたくさん勉強しました。毎日練習したエイサーを、最終日にパレット久茂地前で披露し、感動のフィナーレでした。私の中で一生の思い出となりました。

海外参加者たちは、みんな各国の県人会に所属していて、三線やエイサーなどができたり、方言も少し話せる子もいたりして、みんな根はウチナーンチュであり、アイデンティティもしっかり確立していて驚きました。またウチナーンチュとして自分が少し恥ずかしく思いました。日系の人たちはスペイン語やポルトガル語を話すので、理解が難しかったのですが、表情やジェスチャーでコミュニケーションを取ることができました。

県内のジュニアのメンバーは10月26日から30日まで、第6回世界のウチナーンチュ大会に参加しました。またみんなが集まって会えることが嬉しかった。

開会式も上手くでき、素晴らしい大会となりました。今回ウチナージュニアスタディーに参加した海外参加者にも再会できて良かった。

また、事業に関わったスタッフの方や支えてくれた周りの方々に恩返しができるように頑張ります。



大嶺 華蓮(17)

Karen Omine

沖縄工業高等学校3年生

私は夏休み期間中の1週間、ウチナージュニアスタディーに参加して本当に良かったです。色々な国から参加して、国によって人柄も、文化も何もかも異なっており、とても新鮮でした。話す言語が英語だけでなく、韓国語やポルトガル語、スペイン語などがあり、英語もともに話せない私は、とても大変でした。ですが、「楽しい」や、「嬉しい」などの感情表現は皆同じで、「言語が通じなくても、心は繋がれるんだ」というのを一番感じた1週間でした。

私は生まれた頃から沖縄に住んでいます。母も父も祖母も祖父も、そしてそのまた曾祖父、曾祖母も。沖縄で生まれで沖縄で育ちです。私の家族はみんなウチナーンチュです。今回の参加者はみんな沖縄にルーツを持っており、とても親近感が湧きました。

プログラムでは沖縄について知るということを目的にし、たくさんの沖縄について学習しました。私が知らないこともたくさんあり、まだまだ沖縄について語るのは何年後になると感じました。

この事業に参加して人と繋がる楽しさと自分のルーツについて知ることの重要性などを感じ、私が必要としているものを知ることが出来ました。今後に活かして、私も将来にむけて頑張りたいです。



宮里 百花(15)

Momoka Miyazato

首里高等学校1年生

私は、このプログラムに自分の価値観を変えたい、沖縄に対する考えをより深めたいという思いを持って参加した。その中で大切な仲間と出会うことができ、貴重で濃い1週間を過ごす事ができたと思う。

私は、プログラムの中で海外参加者に沖縄の魅力を伝えたいのに、その事を上手く伝える事が出来ない場面を体験した。上手く伝える事が出来なかったのは、自分が沖縄のことを説明できる程詳しく知らなかったからだ。これをきっかけに、もっと沖縄のことについて学び、伝える事が出来るようになりたいと思い、そのためには実際に自分の足で歩いて感じてみたり、詳しく調べたりするなどの行動に移す事が大切だと学んだ。

ワークショップや平和学習では、自分とは異なる様々な意見があって価値観は一人一人異なっていると改めて気付くことができ、新鮮に感じた。また、参加者全員が沖縄という同じルーツを持っていて、お互いにウチナンチュとしてのアイデンティティを高めることができたと思う。

沖縄にはたくさんの魅力がある。その魅力を伝えていくのはこれからの沖縄の未来を担う私達だと思っている。

これからもウチナージュニアスタディーに関わり、私も1人のウチナンチュとしてのアイデンティティを持ち、沖縄の魅力を伝えていく、そんな素晴らしいウチナンチュになりたい。



中村 優太(18)

Yuta Nakamura

沖縄尚学高等学校3年生

今回のウチナージュニアスタディー事業を行う前の目標として掲げていたのは、県外や海外のさまざまな意見を吸収し、それによりアプローチの仕方を学び、沖縄の良い面、悪い面を知り沖縄のことを本質的に理解したウチナーンチュになりたいということでした。

そして、今回のウチナージュニアスタディーで私はリーダーとして参加できたことを誇りに思っています。なぜなら、参加者だけではなく、スタッフ、ボランティアなどのこのプログラムに関わった全ての人に出会えて、沖縄は世界で見るとほんとに小さな島だが、沖縄のことを思っている人は世界中にいて、沖縄のパワーや沖縄の偉大さに気付けるキッカケとなったからです。

そのキッカケの1つとして、平和学習でのディスカッションです。海外と日本だけではなく、同じ国同士でも価値観の違いに大きく差があると感じました。それぞれ意見は違うが、ルーツが沖縄というのは一緒であり、沖縄がこのような人々や様々な意見を生んだと考えました。

この沖縄の魅力を殺してはいけません。そのためには、私が目標に掲げていた沖縄の良い面、悪い面を知り沖縄のことを本質的に理解したウチナーンチュになる必要があると考えました。そのためには、これからも沖縄に必要なプログラムであるウチナージュニアスタディーと関わるとともに、より良くしていくことが必要だと感じます。それは、私だけではなくこれからの沖縄を担う人財にとってかけがえのない時間となるでしょう。



上原 充葉(16)

Mitsuba Uehara

沖縄尚学高等学校2年生

わたしはウチナージュニアスタディーに参加してたくさんのことを学びました。その中で一番に学んだことは、何事もチャレンジすることが大事だと改めて実感しました。わたしは少し人見知りで、一回喋れば仲良くなれるのですが、喋るまでに時間がかかってしまったので、研修中の1週間という短い時間では、仲良くなるまでの時間が長いことはとても勿体無い事でした。もっと色々な人と喋りたかったし、色々な話をしたかったなと少し後悔しています。

そして、わたしは英語が苦手なのですが、英語が話せなくても、相手の心に訴えかけるように、目を見て、ジェスチャーを使い、複雑な文法がわからなくて複雑な文章が伝えられなくても、自分がわかる単語、簡単な文法を使えば伝わるんだなと気づきました。

わたしは、今回の研修で勉強という括りで英語を学ぶという気持ちが、みんなと一緒に楽しく笑って会話したいという理由で、英語を始めとして、ジュニアの仲間達の母国語である、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、ドイツ語を学ぼうという気持ちに変わりました。

そして、「日本人と違うな」と感じたところは、みんな自分に自信があって、とても輝いていました。日本人の謙虚さは日本人の良いところであると思いますが、「自分を卑下しすぎているところがあるな」と感じたので、海外参加者の仲間を見習い、大好きになれる自分に近づけるように色々な経験を積んで、自信を持てるようになりたいと思いました。

研修の1週間は本当に本当にかげがえのない思い出となりました。言葉では表せれない、人に伝えたくても伝わらない感情でいっぱいになりました。わたしの人生の中で一番刺激を受けた1週間で、みんなとは第2の家族になすことができました。距離は離れていても、いつか会えるって確信しています。私は大好きな仲間達との再会の為に、この研修での学んだ事を生かして沖縄と世界を繋ぐ人になりたいです。



末吉 りんか(16)

Rinka Sueyoshi

沖縄尚学高等学校2年生

ウチナージュニアスタディーサポートに参加して学んだことがたくさんありました。一番学んだことはコミュニケーションをとることです。最初、なかなか自分から話しかけることができなかつた私に海外参加者は積極的に話しかけてきてくれて、とても嬉しかったし、すぐに友達になることができました。言葉がしっかり伝わらなくても、みんなハキハキと喋るのを見てかっこいいなと思いました。最初は全然何を伝えたいのかわからなかつたけれど、時間が経つにつれて、大体相手がなにを伝えたいのかわかるようになっていて、同じことで笑ったり、ダンスをしたり歌ったりして本当に楽しかったです。

戦争についての教え方が国によって違うということも勉強になりました。沖縄の目線からしか考えたことがなかつたけれど、色々な見方があることを知って、もっと興味を持って沖縄戦について学びたいと思いました。

そして、沖縄に住んでいる私達より海外参加者の方が首里城について知っていたり、県人会で三線やエイサーを習っていることに驚きました。また、沖縄に関心を持っていてくれることがとても嬉しかったです。最後にみんなで踊ったエイサーも大成功で一生の思い出になりました。

この研修の一週間はこれまでにないくらい本当に楽しくて、ためになった一週間でした。みんな元気いっぱい、とっても優しくかつた。私は「家に帰りたくない」と言うくらい楽しかつた。今回出会ったメンバーとの繋がりをこれからもずっと大事にして、またいつか全員で集まりたいです。このプログラムに参加出来て本当によかつたです。



又吉 ネリナ(17)

Nerina Matayoshi

沖縄カトリック高等学校3年生

昨年の海外参加者ホームステイ受け入れをした私は、参加者からウチナージュニアスタディーがとても素敵なツアーで参加した方が良いと勧められました。今回は県内参加者として、参加する事が出来てとても嬉しく思います。この事業は、一生忘れられない貴重な体験になりました。

見ず知らずの国も言語も違う44名が一同に集まり、1週間生活を共にするのが楽しみでしたが、正直不安の方が大きかったです。私の心配はよそに、出合っただけ初日だとういものにも関わらず、お互い話し合ったりふざけあったりと、まるで昔からずっと知っていたかのように仲良く打ち解け合いました。

このツアーで1番考えさせられたことは、私のルーツについてです。私の両親は日系アルゼンチン人で、海外参加者のように海外移民子孫の1人です。事前研修の課題で、私の家系図を作り、なぜ移民したのか調べました。事前研修で学んだように、私の祖先達もより良い生活を求める為に、新しい国へ希望を抱いて行ったが、沢山の苦勞をし、ようやく今の生活を手にいれたようです。今の私がいるのも、沢山の苦勞をした祖先のお陰です。私にアルゼンチンというもう1つの居場所とスペイン語を話せる環境を作って下さった事に感謝しています。

一度に沢山集まった海外参加者と交流したことで、こんなにも沢山の国に沢山の人が、沖縄にルーツを持っている事に驚きました。皆、遠くに住んでいるが、不思議と海外に近い存在に感じられました。

海外参加者は県内参加者よりも沖縄愛が強い印象があります。多くの方が、エイサーや三線が好きで習っていたり、海外でも沖縄関連の行事を盛んにやっています。そこで、私も地元沖縄の伝統芸能を身につけたりして、もっと沖縄を愛したい気持ちが強くなりました。

長いと思っていた1週間のツアーは本当にあっという間に終わり、別れの際は本当に寂しく、皆家族みたいに大切な存在になりました。

この事業で学んだ多くの事を役立てていきたいです。また、将来は沖縄と世界を結ぶ架け橋になりたい気持ちが一層深まりました。

素敵な出逢い、貴重な体験、沢山の事を学び、私を成長させて下さったウチナージュニアスタディーが大好きです。ありがとうございました。



親泊 里奈(17)

Rina Oyadomari

宮古高等学校2年生

ウチナージュニアスタディー2016で過ごした1週間は私にとって一生の思い出となりました。自分の持っている英語力を許すだけでなく、他国の文化や伝統、言語など多くの学びがあったこと1週間という短い中で築き上げられた絆は本当にかげがえのないものです。事前研修、プログラム中に得た移民についての知識、全然知らなかったことがたくさんありました。その得た知識を忘れることなく、これからは活かすことが大事だなと思いました。

また、美ら海水族館、首里城、ひめゆりの塔、改めて行けて良かったです。いろんな国からの視点で意見を聞くことができ、今まで固まっていた一つの考えを色々な角度で考えられました。そんな充実した中で、バスの移動時間、夜の皆とのおしゃべり、美味しいご飯、ひとつひとつが楽しくて素敵な事ばかりでした。たくさんの言語での挨拶、私の新たな学びへの第一歩となりました。

このプログラムに出会えたこと、このウチナージュニアスタディー2016のメンバーに出会えたこと、この最高のチャンスをつかむことができた私は、とても幸せ者です。これからも、多くの出逢いと学びを大切に頑張っていきます。本当にありがとうございました。



下崎 葵(17)

Aoi Shimozaki

大阪府立泉尾高等学校3年生

ウチナージュニアスタディーの始めはすごく不安と緊張でいっぱいでした。しかしウチナージュニアスタディー受かったからには、頑張らないといけないと思いました。

私は、人見知りやから「仲良くなれるとか楽しくできるのかな」とか思ったりもしたけど参加者全員フレンドリーでいっぱい喋りかけてくれたりしてよかったです。

移民・移住学習では、海外のことなど沖縄のことをいっぱい学びました。文化学習では、首里城・沖縄県立博物館など見学したり、大阪では味わえない琉球漆器の体験すごく難しかったです。社会学習では、グループの仲がより一層深まった気がしました。自然学習では、美ら海水族館の中を見学したりイルカショーを見たりとなかなか体験できないことができました。また東村では朝からトレッキングしました。皆で助け合いながら頑張り、ゴールしたときは達成感がありました。昼は、グループの皆でカレー作りをして目が痛くなりながらも協力して美味しいカレーが作れました。交流プログラムでは、いろんなゲームしたりキャンプファイヤーをしたりダンスをしました。一番盛り上がった気がします。すごく楽しかったです。平和学習では、平和祈念資料館にいき戦争のことを学びました。見るたびすごく悲しかったです。エイサーは、すごく難しく覚えてるのに必死でした。なんとか本番は、いけたかなって感じでした。でも皆と一生懸命練習したかいがありました。

ウチナージュニアスタディーに参加できたこと、このUJS16期生の皆に出会えたことに感謝です。夏休みのいい思い出ができました。

本当にありがとうございました。



大田 由依奈(17)

Yuina Ota

兵庫県立尼崎高等学校3年生

私は、おばあちゃんがウチナーンチュで小さい頃からいろいろな話を聞かされていたものの、特に沖縄の文化そのものに触れる機会は無く、関西に住んでることもあって沖縄は「遠い自分とは関係ない場所」というイメージがありました。

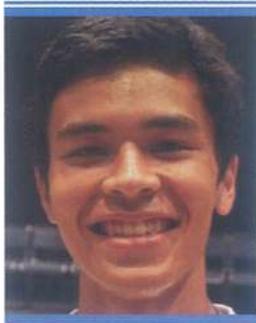
今回、ウチナージュニアスタディーに参加できることになって、「全く何も知らない自分が行って大丈夫かな？」と思ってたけど、おばあちゃんがよく話してくれた、沖縄に行けることに素直に嬉しさでいっぱいでした。本当に何もかも初めてで、方言とか、海外の子の言語とかに壁は感じたけど、そういうのを吹き飛ばす参加者の明るさで楽しい1週間を過ごせました。

「一番印象に残ってることは？」と聞かれると答えることは難しいです。パーティー、海、川下り、BBQ、街散策、歴史学習、エイサー、全部が心に残っているし、楽しかった。たまに疲れたりと大変なときもありましたが全てが良い思い出です。

1日1日がぎゅっと詰まったスケジュールで、一日の終わり頃、寝る前にみんなとその日の出来事を思い出しながら話してる時間が一番楽しかったかなって思います。みんな同世代でも、住んでる場所、話す言語が違って普段地球の裏側に住んでるような子たちと沖縄を通じて出会って一緒に笑ってることが感動でした。

今はもうそれぞれの国に戻って生活してるけど、沖縄で出来た参加者との繋がりを絶対絶やしたくないし、いつかまたみんなで会いたいって思います。

参加するまでは沖縄のことを全く知らなかったけど、今回のウチナージュニアスタディーを通して色んな人たちと一緒に沖縄について学べて、自分が沖縄に関わりを持っていて良かったって心から思いました。また絶対沖縄に行きたいです。



ヒューイト ショーン 瑛(18)

Sean Akira Hewitt

アメリカ合衆国

ワシントンDC沖縄会

初日にホテルの会場に来た時、もう人がたくさん集まっているのを見て、少したじろいだ。50人程が集まっている部屋の中で、私が顔を知っていたのは2人だけだったし、その2人も別の場所に座ってしまっていた。助けてくれと目で懇願しても伝わらず、笑顔で手を振られただけだった。荷物を置いて適当な席を見つけ、日本語で座ってもよいかと尋ねると、前に座っていた人が振り返り、日本語が喋れるのかと聞いてきた。私が「日本語ぐらい喋れる」と返すと一瞬気まずい空気が間に流れ、「そうですか」と返したその人は前に向いた。その30分ほど後に、彼女が私のグループのリーダーだと分かって、このツアーでうまくやっていると不安になった。結局、その不安と部屋を満たしていた緊張は杞憂に終わった。最初の数時間こそはぎこちなかったものの、それ以降は全員が古い知り合いのように互いと打ち解けることができていた。

ウチナージュニアスタディーの特徴は、世界中の沖縄というルーツを持つ子供たちが島の文化と歴史を学べる事だけではなく、沖縄のウチナーンチュと海外のウチナーンチュが共に過ごすという点にあると思う。県内の学生は自分が知らなかった世界に触れることで見聞を深められ、海外の参加者は自分のルーツを再確認することで、自己認識の強化と沖縄の文化への更なる貢献が見込められる。それ以外にも、同年代の友達ができるのは双方にとってもいい影響だと思う。このプログラムを見返して、一番伝えたい言葉が感謝だと思う。今年度のツアーを企画してくれた礼己や勝連さんと池間さん、いつもチューターとして私達がコミュニケーションをとるのを手伝ってくれたアル、さきさんとパクさん。先輩としてリードしてくれたボランティアの皆さん、参加者の親族や県人会の方々、そして名前は覚えていないけど私達を楽しませてくれた首里城や水族館、ビーチとエコパークのスタッフ方、伝統技術を教えてくれた方々、そして元気に毎日全力で過ごした他の参加者達みんなによって、今年のウチナージュニアスタディーは出来ている。全員がいてくれて、とても感謝しています。何故か顔が怖いってよく言われたけど、このツアーで、いろんな人と知り合えて、笑顔の大切さを知りました。これからはもっとにこやかにしようと思います。



ロペズ 知絵里 糸村(15)

Shierry Lopez Itomura

アメリカ合衆国

コロラド州沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーでの経験を一言でいうなら、「人生で最高の一週間」でした。色々な事を学び、体験し、40人以上の人と新しく知り合うことができました。このツアーで出来た友達に教わって、8つの言語で「愛してる」と言えるようになりました。その何人かとはとても仲良くなり、今でも連絡を取り合う親友です。世界中から集まった共通の文化を持つ人たちと会えたのはとてもいい機会だったと思います。

ウチナージュニアスタディーツアーを通して私は大きく変わりました。前はウチナーンチュのハーフである自分が周りとうまく向き合うのが分からなかったけど、ジュニアのみんなと会ったとき、すぐに打ち解けてとても自然に感じて、よくみんなに「知絵里は話し方とかで簡単に心はウチナーンチュってわかるさー」って言われて、凄く嬉しかったです。自分のアイデンティティに自信が持てました。

私のルーツである沖縄で各国からのウチナーンチュと沖縄に住んでいるウチナーンチュと交流できて本当に良かったです。



エイプリル ウヅキ ニモ(16)

April Uzuki Nimmo

アメリカ合衆国

北米沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーツアーを通して、参加者とこのような絆が築けるとは思っていませんでした。私は「文化を理解できないだろう」「上手にコミュニケーションを取れないだろう」と始めは非常に不安でした。しかし、みんな仲良くなろうと熱心だったので、言葉や文化の違いは全くバリアにならず、このツアーで出会った友達と、私が想像していた以上に沖縄の文化を学ぶことができました。

このツアーには私が知らなかった沖縄の姿がたくさん含まれており、このツアーのおかげで自分の文化との繋がりをより感じることができました。私はこれまで那覇市しか行ったことがなかったので、沖縄の全体（沖縄の本当の姿）が見られて良かったです。このツアーは私の沖縄の見方を変え、そして忘れない思い出になりました。またジュニアの参加者に会いたいです本当にありがとうございました。



敬吾 ロビンソン(16)

Keigo Robinson

アメリカ合衆国

アトランタ沖縄県人会

今年の夏、生まれて初めて沖縄に行きました。沖縄は本当に素敵な所で、私は1分1秒を楽しく過ごしました。全て、ウチナージュニアスタディーツアーを支えてくれたスタッフのおかげです。彼らの努力無しでは、私は何も経験することができなかったと思いますし、本当に感謝しています。

私にとって思い出深い出来事の2つあります。1つ目がたくさんの参加者が集まって、沖縄の素晴らしい文化を皆で共有・体験できたことです。沖縄の文化そのものを学べただけでなく、自分たちの文化も共有できました。団体行動が苦手な私にとって、自分の人生で今こそ、このツアーに参加することが必要でした。私がまだ知らない文化を持つさまざまな国の人と出会い友達になることが、このツアーに参加する上での私の目標でした。最終的には、この目標を達成することができたので嬉しく思います。2つ目が沖縄の文化についてたくさんの知識を得られたことです。このツアーに参加する前は、沖縄についてほんの少ししか知らないため、このツアーに参加したいと思った理由でもあります。ツアー期間中は毎日、スタッフがさまざまな場所に案内してくれ沖縄の歴史の豊かさを教えてくれました。例えば平和記念資料館に行った日、アメリカと日本(沖縄)が対戦中だった頃の沖縄戦について学びました。資料館を見学中、私はすごく複雑な気持ちになりました。アメリカと沖縄のハーフである私にとって、その時の状況を把握することは難しかったです。資料館を出た後、私は、アメリカに帰ったら沖縄での経験を友達に話し、そして当時のことをより詳しく学ぶため近いうちにまた沖縄を訪れるという目標を立てました。そう思ったのは、沖縄戦の影響について理解するためだけでなく、沖縄の人々のためでもあります。この2つがツアーを通して私が最も印象に残っている思い出です。

このツアーの好きな部分は、参加者同士の仲の良さです。訪れた場所、滞在した場所全てで私たちはグループに分かれ部屋を分けて過ごしました。これがこのツアーが成功した要素の1つだと思います。参加者同士が交流できただけでなく、自分の文化を共有し、国同士の良い関係が築けました。私は今まで、南米やヨーロッパ、カナダ、メキシコの人達、日本の人達とあまり交流したことがありませんでした。しかし、ツアーが終わり皆それぞれの家に帰った頃には、お互いの文化について理解し合い、自身の一部として受け入れることが出来たと思います。それは素晴らしいことであり、このツアーに参加しないと絶対に得られない経験だったと思います。

このツアーは私の人生において他の物とは代えがたい経験となりました。参加者と築いた絆と共に過ごした思い出は一生の宝物であり絶対に忘れません。私は心から沖縄が大好きで、素晴らしい経験をさせてくれたこのツアーのスタッフにもう一度感謝いたします。ありがとうございました。



金城 ケイドン(14)

Kaydon Adam Kanashiro

カナダ

トロント球陽会

ツアー初日、ホテルにて全参加者やスタッフ、ボランティアメンバーと顔合わせをしました。私が初めて出会ったのは、アメリカ出身のエイプリルと知絵里でした。私たちは全員自己紹介をし、スタッフがツアーの内容を説明しました。毎日、沖縄のさまざまなことについて異なるトピック（例えば、文化、歴史、社会、自然、平和）で学習する、と言いました。加えて、2曲のエイサーの振り付けを覚え、たくさんの人の前で披露しなければならない、と言いました。全て説明し終えた後、私たちは自分たちの部屋へ行き、そこで私は、ショーン、キソン、ゆうたと友達になりました。その後ウェルカムパーティーの会場に向かい、県内参加者による日本の文化や学校についてのショーを見ました。このツアーに参加した日々を振り返ると、私達はほとんどの観光地、ランドマーク、博物館に行ったと思います。このツアーの中で鮮明に覚えていることの1つは、美ら海水族館のバックヤードに入り飼育員さんが生き物を管理している様子を見学したことです。他には、つつじエコパークで皆とバンガローに宿泊したことです。バンガローに宿泊したこと自体が新鮮で景色がとてもきれいでした。また、森（川）の中を散策し多様な植物の生態も見られました。最終日のさよならパーティーでは海外参加者が何かパフォーマンスをする必要があり、私はカナダ・アメリカの参加者でチームを組み、カップソングを披露しました。そして最後は参加者全員でエイサーを踊りました。その後、別れのあいさつを交わしました。

このツアーを振り返ると、私にはたくさんの友達ができ、私がどんな性格なのか皆に知ってもらえたと思います。それは多分、私は機会さえあればいつでも踊っていたからだと思います。

私のグループは、沖縄の基本的なことを教えてくれただけでなく、友情や家族についてもたくさん教えてくれました。私が出会った人全員が、外国人である自分にとても優しくかったです。私はこのツアーで得た経験をずっと忘れません。



朝田 陽向 ホープ (14)

Hinata Asada Hope

カナダ

バンクーバー沖縄県友愛会

1週間のツアーを終えて、私は数多くのことを学び、忘れられない思い出や友達ができました。私が過ごした素晴らしい1週間は、永遠に私の人生の大切な宝物となるでしょう。

ツアー期間中、私は平和の大切さや世界中の人々との繋がりを学びました。ひめゆりの塔・平和祈念資料館に行った時、戦争によってどれだけの人々が影響を受け傷ついたのか思い知らされました。私たち若者は、平和が当たり前のことだと思い込んでいると感じました。他には、参加者それぞれが持つ沖縄との強い繋がりが、私たちに強力な絆を結んでくれることを学びました。私と同じ言語を話さず異なる環境から参加した皆と、こんなにも簡単にコミュニケーションが取れ、心を開くことができたことに驚きました。ツアーの仲間の優しさに、私は暖かい気持ちになりました。

私にとってこのツアーは知識を増やし沖縄を大好きにさせてくれただけでなく、積極的に人と話す自信をつけてくれた素晴らしい経験となりました。このツアーはチャンスを掴むことと、私の視野を広げる新しいチャレンジを与えてくれました。将来、青年リーダーとして再びこのツアーに戻ってきたいです。



井上 文音(18)

Ayane Inoue

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーの一週間は忘れられない特別なもので、異なる国からのたくさんの友達と出会えた場にもなりました。同様に、UJSで行われた様々なプログラムで多くのことを学び、得たものも多くありました。そのうちの一つは、戦争や平和についてのテーマでした。私たちは平和祈念公園やひめゆりの塔を訪れました。このプログラムで学んだことを、私たちは子孫に伝えていかなければなりません。それは私たちの義務だからです。

自然と触れあうプログラムでは、トレッキングや、ビーチでの遊びを通して参加者たちとより仲良くなることができました。一番素晴らしかったのはキャンプファイヤーでのことでした。ボランティアの方々のおかげで様々なゲームで楽しみ、新たに友達としてボランティアの人たちにも知り合うことができました。その後、参加者全員とボランティアの方々、たくさんのUJSの人たちと円になって踊り、素晴らしくて忘れられない瞬間になりました。またUJSでは、お互いを知り合い、UJSに参加した国々の言葉や文化、考えやアイデンティティの交換交流を行なったグループワークショップをしました。そこで私たちは自分自身を見つめ直してみましたが、これはとても大事なことであり、異なる国々のことを知るため、個人や国でさらなる関係を築くために大きな手助けとなるものでした。

エイサーは、5年ほど踊っていなかった私にとって、プログラムの中でも難しいものでしたが、エイサー講師が優しく忍耐を持って私たちに教えてくれたおかげで、上手に踊ることができ、ボリビアで「エイサーの練習をしたい」というやる気を与えてくれました。

UJSのおかげで私がより好きになったものは、エイサーや三線、沖縄の舞踊などその他の沖縄の文化です。また、この素敵なプログラムに参加することができ、とても親切で楽しい人たちに出会えたことで、ウチナーンチュの子孫であることへの誇りも感じました。

UJSで得た経験すべて、私にとって特別で素晴らしいものとなりました。友達のおかげで美しくて素敵な思い出ができました。このUJSで私たちが一つの家族のようになれて、とてもうれしく思います。この私の家族への願いは、それぞれが前へ進み続け、UJSの時と同じように常に明るく優しく、楽しい人であってほしいです。そしてUJSのことをずっと忘れないでいてほしいです。

私はUJSのことを忘れないと約束します。UJSの参加者ともっと友情を育んだり、沖縄とボリビア、また他国との関係を失わないための手助けをしたりする人になるために、将来に向けて日本語と英語をもっと上達させたいです。

最後に、この素晴らしい機会を与えてくれた沖縄県人会、私たちを支え、このプログラムに選んでくれたボリビア県人会へ大変感謝いたします。またスタッフ、ボランティア、そしてUJSのプログラムで私たちを支えてくれたすべての人に感謝します。すべての方々のおかげで私を含めUJSの参加者たちは、素晴らしく忘れられない体験をすることができ、また参加した国々の文化や言葉に触れながら、私たちの未来につながる友情の絆を築くことができました。



上地 メリサ(18)

Melissa Uechi

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

始めに「あなたがどこから来て、どこの人であるのかを決して忘れないで。」これは私の心の中にずっと残るフレーズの一つとなりました。このツアーで経験した素晴らしい出来事のおかげです。

沖縄へ行く前は、「なぜ大人たちはわざわざ古い文化や習慣についておしゃべりするのだろうか？なぜ彼らにとってそんなにも重要なのか？」とっていました。そして私は心の中で「意味のないことだ」とつぶやいていました。

しかし成長していくにつれ、私の見方は変わっていきました。目の前にウチナージュニアスタディーというチャンスが現れた時、私の出身地でもあり本当の故郷でもあるところを、私自身の目で見てみたいと思い、すごく興味が湧きました。私はこのチャンスに挑戦し、今では与えられたこの機会に感謝しても足りないほどの代えがたいものとなりました。以前は全く知らずともしなかった場所である沖縄がきっかけとなって始まりました。沖縄がこんなに美しい場所だとは思いませんでした。プログラムに先立ち、沖縄で過ごした一週間のおかげで、自分の足で那覇の街中を歩くことができました。本当に信じられないほど人々はとても親切で明るかったです。

ウチナージュニアスタディツアーが始まった時、きっとみんなも同じようなことを感じたかもしれませんが、私はとても緊張して不安でした。でも初日から、年齢や国籍、言葉さえも関係なかったことをよく覚えています。ただ単に私たちは同じアイデンティティを持って集まった若者ということだけでした。

日々が過ぎていくうちに、私たちは忘れられないことや沖縄の子孫であるならば知る必要があることを学んでいきました。例えば「どのように外国へ移民したのか」「どのようにゼロからその生活を始めたのか」「文化や習慣を維持するためにそれぞれの国で何に取り組んでいるのか」などです。

また自然の中での楽しみ方であったり、みんなでカレー作ったり、みんなで協力をしながらグループワークを行ったりなどのシンプルなことをしながら同時に参加者一人一人異なる視野を持ち、参加者とどのように一緒に過ごしていくかという、将来私たちの助けになることを教えてくれました。ツアーの経験を通して、他人への思いやりや他の人の意見を聞くことを学ぶことができ、当たり前な団体行動に見えますが、わたしにとってはとても価値のあるものでした。

ツアーの中で最も衝撃的で忘れがたいのは戦争と平和についてでした。とても重いテーマでしたが重要なものでした。こうして私たちの祖先が、私たちが手にしている今日の平和のために何をし、どのように闘ってきたのかを知ることができました。痛みや苦しみ、そして勇気とともに祖先たちは戦ったのです。ツアーで戦争や平和を学ぶために行なった2つの見学は、私の心の中にずっと残るでしょう。

最後に、一番大切なことは、家族と呼べるような素晴らしくて素敵な人々に出会えたことです。国境を越えてもっと遠い所にいる人たちですが、常に私たちの心の中に居続けるでしょう。こんなにも少ない日々で、こんなにも美しく忘れられないものを築き上げることができたなんて、誰が想像できるでしょうか。最高の思い出とは実際に体験したことであり、写真には残す必要のないものばかりでした。

そして最後に、このツアーでの体験を形にし、忘れられないものにしてくれた方々へ感謝を申し上げます。



比嘉 健 セバスティアン(17)

Ken Sebastian Uema

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

僕はウチナージュニアスタディーに参加して本当に良かったと思います。皆と仲良く過ごしいっぱい思い出を作ることが出来ました。

1週間目は名護市に住んでる親戚の家でホームステイをさせて頂き親戚の皆さんと過ごすことがとても良かったです。祖父の家族はとても大きいので全員に会うことは出来なかったけど忙しい中僕を一生懸命歓迎してくれてとても感謝してます。

その一週間の間には買い物に行ったり、沖縄の綺麗な海や景色を見たり、美味しい大好きな和食を食べたりそしてバスに乗って友達に会いにいたりしてあっという間に時間が過ぎました。

2週間目が始まり朝早く起きて那覇まで行ってウチナージュニアスタディーの開会式が行われました。参加者達はいろんなところから来ました。ブラジル、アルゼンチン、ペルー、メキシコ、韓国そしてドイツからも来ました。ウチナーンチュは世界どこにもいるんだーと思いました。最初はすごい緊張してたけどグループに分け合った後に僕のグループのリーダーが皆を受け入れてくれたお陰で緊張感がなくなりました。

その一週間は僕にとって人生一回しか楽しめる特別な週でした。皆で海に入って、博物館に行ったり沖縄の歴史を学びました。戦争の話はよく祖父や祖母から聞いてたけど沖縄県で学ぶ事はボリビアで聞くよりも心が痛かったです。

僕にとって一番楽しい時間はスタッフのしゅんかさんとエイサーを練習する時でした。僕はエイサーが大好き、皆と踊るのがとても楽しいです。

ビーチでのバーベキューも楽しくて肉が最高に美味しかったです。ミニゲームも遊びました。ものまね、腕相撲、炭酸ジュースの一气飲み、僕のチームは3位でした。一緒に笑ったり、いたずらをしたり、話し合うことが出来て最高の一日でした。

最後に閉会式で一分間お別れのスピーチをしました。皆悲しい顔で泣いてました。スピーチを最後まで言えない人もいて僕も涙を流しました。

その後、エイサーを祭り太鼓のメンバー達と踊りました。お客さんが盛り上がってくれて気持ち良かったです。その時は祖母の同級生の皆さんが見に来てくれて感動しました。

僕は来年から大学に進学し4年間の間はエイサーも練習する事が出来なくなりますが又チャンスがあれば沖縄に行って皆さんに会いたいです。ウチナージュニアスタディーに参加する事が出来て本当に幸せです。これからも後輩の皆さんにも参加してもらって沖縄の素晴らしさを体験してほしいです。

沖縄の皆さんありがとうございました。



アザマ タイラ カオリ(18)

Kaori Azama Taira

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

ウチナージュニアスタディー2016に参加するチャンスを頂きました。まずプログラムに先立って、私の沖縄の家族に会い、一緒に過ごすことができました。彼らと一緒に、私の祖父母や沖縄の伝統、価値観をたくさん学びました。私の祖先との繋がりをより身近に感じることができ、またプログラム期間中は勉強だけでなく、沖縄の人の生活スタイルや価値観を学ぶことができました。

毎日様々な活動を行いましたが、どれも楽しく、充実したものでした。例えばエイサー練習や歴史ある場所への見学、散策をしながら自然と触れ合えるアクティビティなど、その他たくさんのごことに取り組みました。これらの活動での一つ一つを思い出す度に、強い感情が溢れてきます。例えば平和祈念資料館へ行き、荒れすさんだ結果を招いた、度を越えた非人間的な出来事を目の当たりにした日を思い出すと、その強い感情が溢れてくるのです。しかし、平和について改めて意識し、世界が望んでいる平和をどんな規模の場でも伝えていくためには、資料館を通して取り組まれている方法も大切だと思いました。このように悲しい思い出もありますが、一方でエイサーやトレッキング、カレー作りでの思い出を振り返ると、自分の居場所を感じたり、友情や幸せ、協力し合う気持ちが湧いてきます。みんなで助け合ったり気を配ったりしながら、いつもみんなが居心地よく、気楽に居られるように心がけていました。

このツアーで取り組んだ中で本当に特別だったことは、活動の一つ一つを“ウチナーンチュ”であるという同じ気持ちで結びついた若者たちと共に行なったことです。多くの人たちと一つのグループとしてアクティビティを行なうことで異なる視点を学ぶことができ、また私たちそれぞれが持つ環境や価値観を共有することができました。最初はお互い知らない者同士から始まりましたが共に日々を過ごしていくうちに、少しずつ大きな繋がりを築き、そして私たちは一つの家族へと変わりました。皆との活動は、起きて朝食をとったり、散策をしたり、服を洗ったりといった、とても新鮮なものでした。それが忘れられない思い出に変わったのは、それぞれの活動を皆で一緒に行なったからです。過ごした時間以上のものによって、すべての感情や体験はずっと私の中にあり続けると思います。そしてまたいつか私たちの再会できる日をずっと心待ちにしています。



オオシロ ミネイ ニコル(16)

Nicole Oshiro Minei

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

私にとってウチナージュニアスタディーは再会の旅でした。ツアーの一週間は沖縄を通して、過去からのウチナーンチュの繋がりを振り返り、現在のウチナーンチュ同士の繋がりをより強いものにするという目的を持った場です。

「2016ジュニアへの参加に選ばれました。あなたにとってとても幸せなことでしょう。これから一日中、もしくは一週間、あなたの周りではその知らせをめぐって盛り上がることでしょう。」と言われた日がありました。しかし、誰もがこれからどうなるのだろうかという不安を抱いているものです。日々が過ぎていき、私は不安を感じていきました。「何を言われるか」「私はどんなふうにもわれるのか」「アクティビティはどのようなものになるのか」など考えました。「過去の参加者が私に言っていたことと同じようなことを感じられるのだろうか、そしてもしそうでなかったらどうなるのだろうか」と不安を感じていました。

空港でペルーの友達と合流し、メキシコに着いて1分足らずでメキシコの参加者の友達ができ、15時間後には成田へ着いてから次はアルゼンチンの参加者に出会い、5分足らずでまるで兄弟のようになりました。沖縄に着くまでに不安は小さくなりました。

ツアーが始まる前、心臓が口から飛び出しそうなほど緊張していて、まさに人生の中で最高な一週間が始まろうとしていました。友達と再会し、また偶然にも1月のセタツアーで知り合ったボリビアの男の子にも再会し「もしかしたらこの1週間はそんなに悪くはならないかも」と思いました。数時間のゲームやダンスの後はずでに参加者全員と仲良くなり、より良い1週間のひとつになると確信を持ちました。

ツアーでは様々なアクティビティが家族や歴史を敬う心に気付かせてくれ、少しずつ私の視野も広がってくれました。これまでみんなが話していた私のルーツが見つかり、また多くの方が生まれ、育ち、平和や戦争で死んでいくのを見てきた太平洋の一部である沖縄と私との繋がりを感しました。必要なことは、文化を通して生きた歴史を維持することや、失わないために努力しなければならないということに気づきました。たくさんの観光地や、これまで忘れていた歴史ある場所に行くと私は全てに感動しました。

また過去の中でもより暗い時代を過ごした戦争体験者の証言を聞き、私たちはそれについて深く考えさせられ“平和”や“人との共感”や“人との団結の大切さ”に気づかされました。私たちの世代から実行するとしたら、そして私たちの子孫も続けてくれたら、わたしたちが今いる場所、持っているものすべて、私たちが私たちであることのために、祖先が大きな犠牲を払ってくれたこと、また彼らのおかげで今があるという認識に繋がるでしょう。

私が生きてきた17年間は祖先の過ごしてきたものに比べるとまだ未熟で、学ぶべきことがまだまだたくさんあるということに気づきました。この一週間は始まりのきっかけであり、また同時に、ウチナーンチュになるための学びのプロセスや教えを引き継いでいくのを任されたのだと思います。私のためにあらゆることを行ってくれた人たち、また私と一緒に過ごした参加者たち、沖縄の新しい家族へ感謝を表すための言葉が見つかりません。ただひとつだけ、何回でも言えること。「どうもありがとうございました。」



イナミネ 照喜名 アイミ(16)

Aimi Inamine Terukina

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

私は今まで海外へ行ったことがなく、もちろん沖縄へ行くのも初めてのことでした。ペルーからの友達2人と一緒にウチナージュニアスタディー2016への参加者として選ばれ、その目的は沖縄やその文化、人々に知り合うため、また私たちの国で周囲の人々に沖縄で学んだことを伝えるためというものでした。

ツアーには多くの国々からの参加者がいて、彼らとともに学んだり、多くの場所を訪れたりするのと同様に、たくさんの友達をつくることもできました。ほとんどの外国人が英語を話していたので、彼らとは気楽に会話をすることができましたが、コミュニケーションを取るうえで言葉の壁はそれほど感じませんでした。英語や日本語が苦手な人もいましたが、それでも常に何らかの方法でお互いにコミュニケーションを取っていました。スケジュールもまたかなり決められたものだったので、色々な場所を巡るために早く出発できるよう、早起きをしなければならなかったし、遅くに戻ってきて疲れていたとしても、最終日の発表のためにエイサー練習もやらなければなりません。エイサー講師の瞬香さんは私たちに2曲の踊りを教えてくれて、そのうちの1つである“いちゃりば結”は今でもお気に入りのエイサーとなっています。

私の心に残る思い出はエコパークで過ごした日々です。なぜなら川を歩いたり遊んだりだけでなく、そのあとみんなで一緒にカレーを作ったり、バーベキューをしたりしたからです。夜は、私たちがとても疲れていたにも関わらず、参加者同士でおしゃべりしたりふざけ合ったりしながらみんなで一緒に過ごすことができる時間でした。空は今までに見たことないほどに澄み、輝いていて、最後の夜に友達と見ることができた流れ星もまた初めてのものでした。それは短くて、あっという間のことでしたが全てが美しい瞬間だったので、わたしにとってだけでなく他の人たちにとっても特別な瞬間でした。

ウチナージュニアスタディーは参加者全員それぞれの一部でもあるけれど、みんなで共有したものでもあります。私は、いつの日かまたみんなに会えると分かっています。なぜならウチナージュニアスタディーはそれぞれが国に帰った時に終わるものではなく、再会の瞬間への願いのもとに訪れるはずだからです。



ルイス ハツミ レベッカ(16)

Rebeca Hatzumi Ruiz Perez

メキシコ合衆国

メキシコ沖縄県人会

始めに、私に与えられたこの機会に感謝したいです。そのおかげで私の家族に会うことができ、また私の祖父母が生まれた地を知ることができました。

ウチナージュニアスタディーの一週間を迎え、幸せや不安など本当にたくさんの感情がありました。私たちへの歓迎パーティーが行われるホテルへ着き、ツアー前に友達になったペルーの参加者と一緒に会場へ向かうと、そこで名札が配られました。会場内にはアルゼンチンとペルーの子たちしか知り合いがいなかったのとても不安でしたが、アルトゥーロさんの自己紹介後から私たちはすぐに仲良くなりました。私たちに一週間のアクティビティの説明を始め、その後私たちも自己紹介をし、踊ったりゲームをしたりしました。その時から「私たちは良い家族になるだろう」と気づき始めていました。

私たちは首里城を訪れ、歴史や以前使用されていた衣服、戦後復元された絵画、冠や王の印鑑などに驚かされました。その時代のままの形で見れたことは信じられないことでした。

一週間エイサーの練習をしました。私はメキシコ支部祭り太鼓の一員なので、エイサーが生まれた地である沖縄を知ることには私にとってとても重要なことでした。沖縄の祭り太鼓のメンバーである瞬香さんから、ある舞台上で「一緒に踊ることができるかもしれない」と聞きました。私の夢の一つは、沖縄の支部と一緒に踊ること、またエイサーを創立した人と知り合うことだったので、彼女からそれを聞いた時私の目は涙でいっぱいになりました。

彼らと踊る時は信じられないほどのエネルギーを感じました。ずっと踊っていたくなるほどでした。踊り終えた時、祭り太鼓を創立した人が私に近づき、「メキシコ！すばらしい、とても上手に踊りますね」と言いました。私にとってその言葉はとても嬉しく、彼からの言葉だからこそも心に響きました。

また私の好きな思い出は川のトレッキングです。とても楽しくて、川から出たくありませんでした。自然を満喫することのできたキャンプ場もとても良かったです。キャンプ場を離れ、次は平和祈念公園へ行きました。到着して最初に、そこにあった爆弾痕が目に残り、とても悲しい気持ちになりました。通訳音声ガイドが配られた後、資料館内を見学し始めました。資料館内にあるものを見てまわると、切り裂かれたり血で汚れた服に衝撃を受け、泣き出してしまいました。また戦争のビデオや、生き抜いた方々が戦争でどのように生きていたのかを綴られたものがあり、何人かは自分の親の死も見ていたそうです。続いてひめゆりの塔へ行きました。ひめゆりの歴史を聞き、私はさらに泣きました。私と同世代の女の子たちが病人を看病しなければならなかったし、中には絶望によって自殺した人もいたからです。引き起こされた出来事はとても醜いものでした。その後資料館に入る時、今から話をしてくれる人は戦争の生存者の一人であるとアルトゥーロさんから聞きました。すぐに私たちはあたりを見渡し、笑顔と共に生命力に溢れた女性を見つけました。私は彼女のもとへ駆け寄り、抱きしめました。

この旅はずっと私の記憶に残っています。私の沖縄の家族に会えたし、また祖父母が生まれた地へ訪れることができたからです。初めての一人旅だったので、最初は私にとってこれは挑戦でした。でも私の家族が、「沖縄に行くことは後悔はしないだろう」と言ってくれたので、過ぎていく日々の中で、私の祖先への誇りと幸せを感じました。ウチナージュニアスタディーで行なったアクティビティはとても楽しく、私たちを家族のように繋げてくれました。言葉の壁は関係なく、一緒に生活をし、歌い、踊り、楽しく遊びました。一日一日、共に有意義に過ごしました。他の国々の若者たちと一緒に生活することは大きな経験となりました。帰るころの私の表情には、私の家族やルーツに対する大きな誇りで溢れていました。沖縄で過ごした素晴らしい時間を、みなさんありがとうございました。



デシケイラ パウラ サユリ 屋良(14)

Paula Sayuri Yara De Siqueira

ブラジル連邦共和国

ブラジル沖縄県人会

ずっと前から自分のルーツである沖縄について知ることが夢でした。なぜなら、私たちの先祖が沖縄を離れ、新しいスタートを目指した理由を知りたかったからです。

私は今まで沖縄を訪れたことはなかったけれど、祖父母の話聞くだけで沖縄のことを懐かしく感じていました。

ウチナージュニアスタディーのおかげで、私たちの先祖が幸せな日々を送った場所、嬉しいことや悲しいことを過ごした場所、戦争を体験して新しいスタートのために力になった場所について知ることができました。

戦争に関する資料館や沖縄の人々の生活、自然の美しさ、首里城などたくさんの場所を見学し、沖縄の様々な面について学びました。また、自身でもいろんな体験ができました。例えば、沖縄での生活、日本語、うちなーぐち、歴史や人々などです。

ツアー最終日に、私たちが一週間で学んだことを、これからの一週間、一ヶ月にどう活用するか目標を立てるワークショップがありました。私にとってこの一週間で学んだことは一ヶ月、二ヶ月後だけではなく、これからの人生ですべて活用していけると思います。

また、ツアーの一週間で友情の大切さを学びました。私たちの絆には、どんなに距離があっても乗り越えられる強さがあると思いました。沖縄に行く前から「いちゃりばちよーでー」の意味を知っていましたが、ブラジルに帰ってからは、その言葉が持つ意味だけではなく自身の経験として実感するようになりました。

最初はこんな短い一週間で何ができるかと思いましたが、毎日新しい体験ができ驚きました。距離と月日のせいで疎遠になっていた親戚とも絆を感じ、自分がこれまで抱いていた「親戚」のイメージも変わりました。親戚というのは、ただ同じ家族関係にある人たちを指すのではなく、遠く離れていても見た目が似ていたり、同じ考え方を持っていたり、確かに私たちは同じ親族だと気づきました。

ブラジルでいつも練習しているエイサーと舞踊が誕生した沖縄を知ること、自分のルーツを再認識することもできました。武道場に行ったとき、偉い先生方から「琉球舞踊を広めるために海を渡りブラジルまで来た」と聞き、とても感動しました。また、琉球國祭太鼓の先輩達と一緒に国際通りでエイサーを披露することができ、本当に最高でした。感情が溢れました。

そして、沖縄をルーツに持つ世界中の様々な人たちと一緒に生活したことは貴重な体験でした。皆それぞれ国の文化が違いますが、沖縄がルーツという共通点がありました。たった一週間でしたが、素晴らしい経験がたくさんでき、とても印象に残りました。

ブラジルへ帰国して、友達や知り合いの皆にも「私と同じ体験をしてほしい」と思うようになりました。彼らに沖縄を訪れることを勧めました。将来、私はまた沖縄へ戻り、今回出会った皆と再会したいです。また、沖縄の親戚と一緒に沖縄料理を食べたり、おじーのお姉さんにハグをしたいです。おじーのお姉さんは年寄りでも物忘れが多いですが、とても元気な方です。私は3回自己紹介をしましたが、お婆さんはいつも私のことを忘れていました。でも、いつも暖かいハグをしてくれ、「遠いブラジルから親戚が来たから嬉しい」と言ってくれました。沖縄の人の温かさにとっても感動しました。世界中にいる若いウチナーンチュの私たちに、このような機会を与えてくれた沖縄県に心から感謝します。

こんな素晴らしい沖縄を知ることができ、私はとても恵まれた運のいい人だと思います。



比嘉 ブルーナ スエコ(18)

Buruna Sueko Higa

ブラジル連邦共和国

ブラジル沖縄県人会

初日は、参加者の私たちは国ごとのテーブルに分かれ、自己紹介や他の参加者と交流しながらブラジルにおける沖縄文化についてプレゼンテーションを行いました。アルゼンチン・ポリビア・ペルーの友達と久しぶりに再会したり、また新しい友達が作れたり、とても最高の日でした。宿泊はグループことで部屋に分かれていて、最初は少し不安でした。なぜなら、グループ全員は初めて会った人だったからです。しかし、彼女たちはとてもフレンドリーで、私は日本語でコミュニケーションができませんが、とても楽しく過ごしました。その日の夜はウェルカムパーティーで、4年間ぶりに会った沖縄・ポリビア・ペルーの友達と再会できて、とても感動しました。私の親戚も開会式に参加して、私にとってさらに特別なイベントとなりました。

2日目は沖縄県庁へ行き、歓迎セレモニーを行いました。次に首里城へ行きました。写真では見たことがあったが、実際に首里城へ行ってみると想像以上に大きく綺麗だったのが印象強かったです。首里城までの移動はとても暑かったが、スタッフが毎回水やお茶を配布していたので助かりました。その後、沖縄の伝統工芸を体験し、私は紅型を選びました。ワークショップがとても楽しくできて大満足です。ホテルへ戻り、瞬香先生がエイサーについて説明しエイサー練習が始まりました。パウラさんと私にとって、特別な機会となりました。なぜなら、数ヶ月前前に瞬香先生はエイサーを教えるためにブラジルへ行き、私たちと友達になっていました。私たちはUJSに参加することが決まったときに、瞬香先生はエイサーの練習で私たちの協力を依頼したので、とてもワクワクでした。ツアーでは毎日エイサーの練習があり、他の参加者にエイサーを教えることができ、ブラジルで学んだエイサーを沖縄で伝えることは幸せでした。エイサーの聖地である沖縄でエイサーを演舞することが私の夢でした。

3日目は美ら海水族館へ行き、大きな水槽やイルカショーなど今まで記憶に残っています。水族館の後、ビーチへ行って参加者全員でマリンスポーツや遊泳を楽しみました。北部のホテルに泊まり、そこでは南部のホテルと違って自然に囲まれて、とても好きになりました。ボランティアも来てくれて、参加者全員でグループ対抗ゲームやキャンプファイヤーやダンスをしたりして人生の楽しい思い出の一つとなりました。

4日目は資料館へ行き、私にとって一番大事な一日となりました。私は他の参加者より年上なので、考え方は違うと思います。人によってそれぞれ物事の興味があると思いますが、参加者の中でビーチや遊ぶ日は一番大事だと思っていた人が多い気がしました。私にとって、資料館の見学を通しておじー、おばーやご先祖様のことを学ぶ日で、一番大事だと思います。その日は天気が悪く、平和の礎で親戚の名前を見に行くことができず、とても残念でした。ご先祖様が苦勞したことを知る機会で、ご先祖様への感謝の気持ちが強くなると思います。なぜなら、彼らのおかげで私は今ここにいるからです。ご先祖様が沖縄で苦勞したこと、戦前、戦後で体験したことやまた日本や海外で感じた差別がありました。しかし、それを乗り越え、海外で成功して沖縄の文化を継続しているご先祖様のことを知ることで、苦勞したことより彼らの沖縄に対する愛情が強く感じます。沖縄戦の話を知ること、おじーやおばーのことを誇りに思って、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーをさらに誇りに思うようになりました。

閉会式は私たち海外参加者も日本語でスピーチをしました。さよならパーティーではブラジルのダンスを披露しました。最後に参加者全員でミルクムナリといちゃりばー結を演舞しました。その後、琉球國祭り太鼓のメンバーたち（ブラジルの屋良パウラ、ポリビアの健、アルゼンチンのルリ、メキシコのハツミ）はパレット久茂地前広場へ走って向かいました。琉球國祭り太鼓の演舞に参加することができました。一曲目は踊ることができませんでしたが、その後無事演舞に参加できました。最後にウチナージュニアスタディーの参加者全員と一緒にミルク・ムナリといちゃりば結を演舞しました。今回、公開演舞で知らない人の前でエイサーを踊りました。思ったより感動して、いちゃりば結を踊りながら、涙を流してしまいました。その日は私の人生に刻まれ、沖縄での旅はパーフェクトな終わり方となりました。



アルツール ケンゾウ ヨナミネ カイハラ(16)

Arthur Kenzo Yonamine Kaihara

ブラジル連邦共和国

カンポグランデ沖縄県人会

沖縄の街並み非常にきれいで、自然の美しさとあいまって、まるで天国のようでした。ブラジルとは全く違い、道を歩いただけでも安全を感じました。どこへ行っても、お店に入ると、あいさつや気遣いの声かけられました。それは沖縄の人々の優しさの良いしつけの影響だと思えます。

時差や食文化になれるまで二日ぐらいかかりましたが、その後楽しいことがたくさんありました。沖縄料理はとて美味しくて、ブラジル料理と比べると薄味です。また、あまり慣れていなかった辛い食べ物（ゴーヤーと緑茶）もとても美味しく食べることができました。

ツアーは人生で最高なものだったと言えます。私たちはほぼ那覇市に泊まりましたが、他の市町村にも行きました。沖縄戦で壊滅され再建された首里城を見学しました。それから沖縄県庁へ行き、那覇市伝統工芸館で工芸体験をしました。国際通りやその周辺も散策しました。美ら海水族館へ行った際はバックヤードも見学することができ、水族館にいる魚たちの飼育の様子を見ることができました。そして、水の中でアクロバットに泳ぐイルカショーも見ました。ビーチへ行ってバナナボートにも乗りました。川でトレッキングをして、皆でカレーも作りました。食べた物の中で一番美味しかったです。平和祈念資料館やひめゆり資料館へ行って、沖縄戦の悲しい話も聞きました。

ツアー始めは友達はあまりできないと思っていました。なぜなら、私は日本語があまり話せないし、異文化の壁が問題になると感じていました。でも結局そんなことは無く、ただの偏見だったと気づきました。言語が違って、皆自分なりにコミュニケーションが取れました。ツアー初日、グループに分かれ様々なアクティビティをしましたが、その日の夕方には私たちは長年の友達のようなようでした。たった一週間で絆が深まり、一緒に笑ったり悩んだり、お互いに助け合ったりしました。ウチナージュニアスタディーの最後の日、皆は兄弟のようなようでした。別れはとて辛く、海外のメンバーは帰国したくなかったらうし、県内のメンバーも私たちに帰って欲しくなかったらうと思えます。

たとえどんなに距離があって離れていても、沖縄でできた友達との絆を大切にしていきたいと思えます。2016年ウチナージュニアスタディーのスタッフの皆さん、カンポ・グランデ沖縄県人会の皆さんに心から感謝しています。この事業を通して幸せいっぱいの時も悲しい時もありました。とても充実していたこの一週間は、まるで皆さんからいただいたプレゼントだと思えます。



安里 ルーカス(14)

Lucas Javier Asato

アルゼンチン共和国

在亜沖縄県人連合会

参加したウチナージュニアスタディーでの一週間は、今までの人生の中でもとても良い一週間となりました。たくさんの経験や様々な感情でいっぱいでした。今はその一週間をとても懐かしみながら思い出します。

まず始めにリーダーやスタッフの方たちの紹介を受け、その後にはわたしたち参加者の自己紹介を行いました。次にお互いを知るために様々なアクティビティをしました。踊ったり、おしゃべりをしたり、また6~7人のグループに分かれて、とても面白くて楽しいゲームをしたりしました。その後昼食をみんなで一緒に食べました。

自国の紹介は恥ずかしさがあったし、少しも失敗したくなかったので、とても緊張していたのを覚えています。でも最後まで全て上手くいきました。

ツアーの参加者たちは、みんなとても良くしてくれました。彼らは温かい人たちで、今までの人生の中で外国人と話したことのない私は彼らのあり方に驚きました。いつもみんなのことを気かけ、常に私たちに何か足りないものがないか、全て順調かどうか尋ねていました。今は彼ら全員を、誇りを持って「友達」と呼べます。たとえ私たちがものすごく遠くにいて、もう会うことはないとしても、連絡を取って言葉を交わし合っていくと思います。私たちはプログラムのコンセプトである、世界中のウチナーンチュの子孫のネットワークを築き、コンタクトを取り続けていくということを理解し、具体化することができたと思います。

また一方で、ものすごくたくさんの経験を持ち帰り、歴史と同じように文化についてもたくさん学ぶことができ、また自分の日本語の練習もできました。日本語を完璧にすれば、あそこで出会った人たちや自分の家族とより流暢に会話をすることができるようになると思います。

美ら海や首里城、博物館や海へ行くなど、様々な場所を訪れ、知ることができ、どこもとても良い所でした。そして私の国アルゼンチンにあるものとは全く違うものでした。また戦争についても多くを学びました。それは強く興味を引かれたテーマであり、特にその起こった出来事の重大さや、どのように乗り越えていったのかという点についてとても気になりました。その他に私の関心を惹いたのは文化でした。アルゼンチンのものとは全く異なり、沖縄では目上の方々を敬う気持ちをとても持って、それが特に好きでした。またみんな挨拶をし、とても丁寧で、すべてが公正で秩序あるものでした。エイサーも習いました。アルゼンチンでは取り組む機会のなかったことのうちの一つでした。参加者とエイサーをしたことはとても嬉しかったです。最初はとても苦労しましたが、段々みんなと合わせていくことができました。大通りでの練習はとても楽しく、人々が近づいてきて見入ったり、写真を撮ったりしていたのでまるで私たちがプロになった気分でした。また最後の日に、舞台の上で家族にエイサーを披露したり、他のエイサーや踊りのグループの前でエイサーをしました。嬉しいことに私たちが演奏した2曲とも上手くいきました。観客が大きな拍手した瞬間はとても幸せに感じました。

全部まとめると、ウチナージュニアスタディーに参加した7日間は非常に素晴らしいものでした。今振り返ると、すごく懐かしむ気持ちでいっぱいです。世界中の友達と参加したウチナージュニアスタディーに戻るためならどんなものでも差し出すと思います。沖縄県の文化や伝統を継いでいけるようにうちなーぐちや三線やエイサーを学びたいなと思っています。もちろん日本語の練習を続けています。

これを具体化するのにできる限りのことをしてくれた皆さんに今感謝したいです。人生の中で特別な機会となりました。いつかもう一度戻り、私にしてくれたこと全て、あるいはそれ以上をお返ししたいです。皆さんにもアルゼンチンのブエノス・アイレスに来てほしいです。とてもきれいな場所で、観光地でもあるのでみんなもいつか訪れるだろうと思います。本当に感謝しているので、もし何かあればいつでも遠慮なく言って（頼って）ほしいです。本当にありがとうございました。



仲宗根 ルシア(17)

Nakasone Lusica Micaela

アルゼンチン共和国

在亜沖縄県人連合会

ウチナージュニアスタディーはとても大きな経験となりました。この交流は、沖縄へ初めて訪れる機会が与えられただけでなく、異なる国々の人たちと知り合い、彼らとの友情の絆をつくりあげ、様々な文化を学ぶことができました。

沖縄での滞在期間中に色々なアクティビティを行いました。中には沖縄の代表的なものもありました。例えば私たちに教えてくれたエイサーは、沖縄特有の踊りの一つで、アルゼンチンでのウチナーンチュのグループ活動の中でもより盛んなアクティビティの一つでもあります。練習したエイサーの成果を、発祥地である沖縄で披露することを通しての学びもありましたが、それだけでなくエイサー自体をとて楽しむことができた素晴らしい体験となりました。エイサー練習はこの交流の参加者全員で共有した数多くの時間の一つであり、それだけでなくウチナーンチュとしての同じ気持ちを共有することができました。

ツアー期間の日々の中で、島を散策しながら魅力的な観光地の数々をめぐり、その一つである首里城にも訪れ、沖縄の歴史についてより一層学ぶことができました。また、平和祈念資料館やひめゆりの塔の資料館へ行き、戦争時代に人々がどう生きていたのか、犠牲者たちがそれぞれの命だけでなく他の人の命をも助けるために動かなければならなかったことについて深く知ることができました。さらに、平和の意味や私たちが平和を伝えるために取り組むべきことについて改めて考える時間を設けました。これは世界中に関わりのあるテーマであり、また国家間の調和を促すために権力を放棄することでこの国が行なっている努力を目の当たりにすることができたので、この活動を通して大きな学びを得ることができました。これは資料館で得た最も価値あるものの一つです。

またツアーでは、他にも美ら海水族館へ訪れて魚やサメやクジラなどの多くの種類を見たり、イルカショーを観ることもできました。イルカたちに水をたくさんかけられいっぱい濡れましたが、とても楽しいショーでした。でも間違いなく私の大好きなアクティビティの一つは、ビーチへ行ったことです。そこではみんな一緒にバナナボートやバレーで遊びながら海を満喫し、楽しむことができました。また思い出に残っているキャンプファイヤーの夜は、参加者、スタッフ、ボランティアの人たち全員で過ごした時間だったのでとても特別なものを感じました。たくさんのゲームを行ったり踊ったりする中で「私たちはもうすでに一つの家族なんだ」と気付きました。

こうしてこの一週間で、私は教えや価値観、学びや友達だけでなく、一つの家族を得ることができたのです。このツアーを通して、友情の絆をつくりあげるのに障害となるものは何も存在しないと気づきました。そして多くの参加者とは同じ言葉を使って話してはいませんでした。互いを知ることができただけでなく多くの楽しい時間を過ごし、一秒たりとも無駄にせずこの経験を有意義にすることができました。みんな同じ国に住んでいるわけではありませんが、沖縄という私たちの起源である島への想いが、常に私たちを繋げてくれるでしょう。

ウチナージュニアスタディーのおかげで、沖縄やその文化について学び続けていきたいという意欲がわいてきただけでなく、この1週間で学んだことすべてを伝えることができたかなと思うようになりました。また日系の若者がこの交流に参加し、彼らの根源を学びたいと思えるよう促すことができたらいいなと思いました。

最後に、私に沖縄へ訪れる機会を与え、この素晴らしい交流に参加させてくれた沖縄県県庁に感謝したいです。また、このウチナージュニアスタディー2016を実現させるために出来る限りのことを行なってくれたすべてのスタッフに感謝を捧げたいです。



劉 萌奈(16)

Low Mo Na

マレーシア

マレーシア沖縄会

1週間という短い期間に私は、人生で最高の思い出と友達ができました。このウチナージュニアスタディーツアーは、チームワークの大切さや自らの文化をより理解すること、そして、ウチナーンチュとしてのアイデンティティに感謝することを教えてくれました。さらにこのツアーは、たとえツアーが終わった後でも沖縄についてもっと学びたいという私の意欲を高めてくれました。このツアーには“私のウチナーンチュのアイデンティティ”というテーマがありました。正直、参加するまでほとんど知りませんでした。しかし、充実した1週間を通して、私は伝統芸能である紅型やエイサーといった一つ一つの経験から沖縄の文化を感じることができました。

このツアーを通して、異なる視点や意見を持つ世界中の人達と友達になり、私は新しい考え方に気がつきました。私たちは、みんな違う国の出身だけれど似たような沖縄のアイデンティティを半分持っていることから、すぐに意気投合できました。それはとても素晴らしいことだと思いました。

最後に、このツアーのおかげで沖縄との新たな深いつながりを築くことができ、また沖縄に帰ってくることが前よりもずっと楽しみになりました。このツアーを成功に導いてくれた関係者の皆さんに本当に感謝します。私が経験したように、沖縄のアイデンティティに気づかせてくれるこのようなツアーが今後も続いていくことを期待します。このような機会をいただけたこと、本当にありがとうございました。



宋 起成(14)

Song Ki Sung

大韓民国

韓国沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーでのプログラムはすべてが記憶に残るものでした。なぜなら、それは参加者全員で一つの事をしたからです。皆で一つの事をするというのは大きな力があると僕は思います。言語の違う国の人でも何かをしていくうちに共通点を見つけたり、笑いのツボが同じだったりして、すぐに仲良くなれるからです。海でバナナボートに乗ったのもキャンプファイヤーもカレーを木を燃やしてから作ったのも、一人でやっても楽しくないけど皆でやったら、とても楽しく感じてもっとやりたいと思いました。川を歩くのは正直、濡れるし嫌でした。でも、仲間で助け合って、手を取り合って最後までたどり着いた時は、物凄い達成感がありました。仲良くなった皆とプログラム以外にも、東村で夜に星を見ました。流れ星を見たのもそれが初めてで、皆と同時に見れた喜びを分かち合えて、良かったし、僕にとってあの記憶は一生の宝物です。

平和学習は、自分が生まれて、自分の故郷であると思っている沖縄と向き合う事が出来ました。大好きな沖縄に戦争が起きないように、そして、自国である韓国も戦争が起きないようにとそう考える大切な時間でした。

僕は未だにうちなーぐちである、「にふえーでーびる」と「ハイサイ」を覚えています。韓国にはまだ沖縄の事を知らない人や、昔から日本であったと思っている人が多くいます。もっと沖縄のことを知ってほしいです。

またウチナージュニアスタディーできるとしたら、参加者全員で花火もしたいです。そして、沖縄に来たら海にもう一度行きたいです。バスの中から見える海は美しかったです。

良い思い出を沢山残してくれてありがとうございました。韓国と日本の繋がりにも興味が湧いてきたのでこれからもっと勉強したいです。



名嘉真 英亮(21)

Hideaki Nakama

沖縄国際大学1年生

私は、以前にもこのツアーに参加し様々な事を学びましたが、今回青年リーダーとして参加したことで、新たに多くの事を学ぶことが出来ました。それは、リーダーとしてどうあるべきかです。例えば、2日目の県庁訪問の時、他の場には無い緊張感のある所だったので参加者に自国の代表である意識を持ってもらえる様にリーダーとして引っ張っていかねばならないと言うことです。この後から様々な場面によってみんなと遊ぶときは遊んで、真面目な場面ではきちんとまとめると言うメリハリを付ける事が出来る様になりました。

また、リーダーとして学べた事だけではなく、伝統工芸体験やまちぐわー散策、トレッキング等、楽しい思い出がたくさん増えました。その中でも、やはり一番楽しめたのは、キャンプファイアーです。飴取りの時のドイツからの参加者で私と同じ青年リーダーの真理の探しかたや声真似での珍解答でみんなで大笑いしたことがとても印象的でした。そして、この日を境に今までよりもみんなとの絆がさらに深まったと思います。この様な思い出が増えた事でこのツアーの楽しさを改めて感じる事が出来ました。

このツアーを通して初めは不安もありましたが、最終日のみんなの笑顔や涙を見て改めてリーダーをやって良かったなと感じ、リーダーとしてみんなの役に立てたのかなと思う事が出来ました。こう思えたのも、勝連さんを始めとするスタッフの皆さんの支え合っただけのことなのでとても感謝しています。今後は、ボランティアとしてこのツアーに関わって行って今ある世界との繋がりをもっと広げていけたらと思います。

最後に「みんな！ありがとう！」



内間 真理(22)

Mari Uchima

ドイツ連邦共和国

ドイツ沖縄県人会

ウチナージュニアースタディーツアーを思うといつも幸せな気分になります。ウチナージュニアースタディーツアーは私にとって人生で最高の出来事でした。御参加させていただいて心より感謝申し上げます。

私は2012年に初めてウチナージュニアースタディーツアーに参加しました。そして今年は青年リーダーとしてウチナージュニアースタディーツアーに参加しました。最も素敵だったのは世界からの色々な沖縄に縁のある若い人と仲良くなることでした。最初はみんな知らない人ばかりだったのに、最後の日は別れなくなかったのが皆で泣きました。ウチナージュニアースタディーツアーのお蔭で本当に素敵な友達ができました。今でも2012年の参加者と連絡を取ったり、沖縄で会って一緒に遊びに行ったり、パーティーをしたりしています。今年の参加者ともまだ連絡をとっています。二つ目に素敵だったのは沖縄のことをもっとよく知るようになって、沖縄との絆を深められたことです。首里城や博物館を尋ねて、琉球王国や世界第二次対戦に関する沖縄の役割を学ぶことが出来ました。エイサーも学びました。平和祈念公園の博物館の展覧会はとても印象的でした。死んだ子供や軍人の写真を見たり、子供が書いた目撃証言を読んだら、本当に「戦争は恐ろしいものだ。平和を広げるべきだ。」と思いました。今年ウチナージュニアースタディーツアーでの目撃者の講師の話聞くのも印象的でした。まだ子供だったのに、洞窟の中に隠されていた病院で薬も足りなかったのに傷のついた軍人や民間人の世話をしなければならなく、多くの学生が亡くなってしまったのを聞いたら、本当に平和の時代に生きていて良かったと思いました。今は日本も沖縄も平和ですが、特に沖縄にまだ米国の基地があります。大学で東アジア研究学（政治学、東アジア学、日本語）を勉強していますが、特に日米同盟、安全保障、そして普天間移設問題に興味を持っています。これからも沖縄・日本の問題についてもっと勉強をしたいと思います。

日時：8月1日(月) 11:56 ~放送

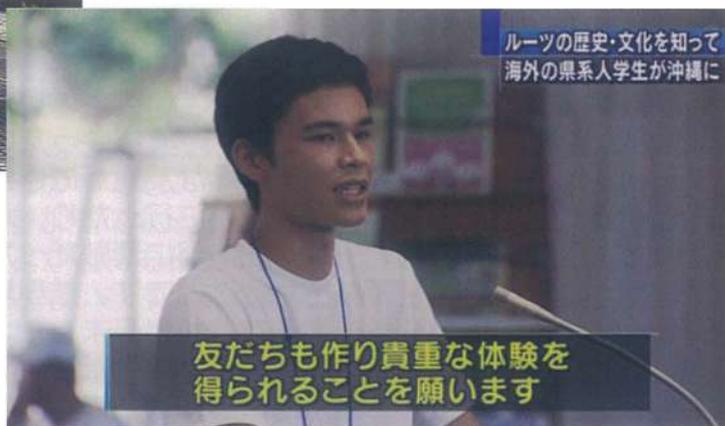
チャンネル：琉球朝日放送

<http://www.qab.co.jp/news/2016080182257.html>



▲県庁での全体写真

▼海外参加者のスピーチの様子



日時：10月27日(木) 18:15~18:54

番組：琉球放送 RBCザ・ニュース



日時：10月27日(木) 17:53~18:58

番組：沖縄テレビ おきコア



インターネットTV(YouTube)

●修了式

<https://youtu.be/OweIAQbZ3nw>

The screenshot shows a YouTube video player for the video titled "第6回世界のウチナーンチュ大会 第一部ウチナージュニアスタディーツアー修了式". The video is from the channel "動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会" and has 1,029 views. The video content shows a group of people on a stage in front of a screen displaying "Uchina Junior Study Tour 2016".

第6回世界のウチナーンチュ大会 第一部ウチナージュニアスタディーツアー修了式

動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会

チャンネル登録 314

視聴回数 1,029 回

通知 共有 その他

4 0

次の動画

自動再生

- 第6回世界のウチナーンチュ大会、Eisa EXPO 2016 鼓榮若太陽・琉 daikusan0205 視聴回数 1,239 回
- 第6回世界のウチナーンチュ大会 前夜祭パレード 動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会 視聴回数 9,842 回
- 第6回世界のウチナーンチュ大会 前夜祭パレード (国際通り) K-DAN 視聴回数 2,558 回
- 一万人のエイサー踊り隊前夜祭でウチナーンチュ大会PR エイ 動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会 視聴回数 401 回
- 第6回世界のウチナーンチュ大会 テーマソング「結〜心届く〜」 okinawaBBtv 視聴回数 7,641 回

●エイサー演舞&エイサー講師への感謝の挨拶

<https://youtu.be/bq1WkrahDkg>

The screenshot shows a YouTube video player for the video titled "一万人のエイサー踊り隊前夜祭でウチナーンチュ大会 PR エイサー演舞". The video is from the channel "動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会" and has 569 views. The video content shows a large group of people in purple and white costumes performing a dance in a public square.

一万人のエイサー踊り隊前夜祭でウチナーンチュ大会 PR エイサー演舞

動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会

チャンネル登録 314

視聴回数 569 回

通知 共有 その他

4 0

次の動画

自動再生

- 世界のウチナーンチュの日制定宣言 動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会 視聴回数 693 回
- 第6回世界のウチナーンチュ大会 第二部一万人のエイサー踊り 動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会 視聴回数 945 回
- 第6回世界のウチナーンチュ大会 前夜祭パレード 動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会 視聴回数 9,842 回
- 第6回世界のウチナーンチュ大会 第一部ウチナージュニアスタディーツアー修了式 動画チャンネル 第6回ウチナーンチュ大会 視聴回数 995 回
- 国吉メリッサ 世界のウチナーンチュ大会2016 メリッサ クニヨシ shinji ichinose 視聴回数 5,318 回

8月3日(水)



海外県人子弟ら 44人が文化交流

スタディーツアー

海外に移住した県人の子弟らが参加する「ジュニアスタディーツアー」のウェルカムパーティー(県主催)が7月31日、那覇市の沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハで開かれた。写真。10月に開かれる第6回世界のウチナンチュ大会のプレイベント。海外から

21人、県内外から23人の計44人が8月6日までの1週間、沖縄の移民の歴史や文化などについて学ぶ。パーティーで県文化観光スポーツ部交流推進課の下地誠課長が「沖縄の歴史や学び文化を満喫してほしい」と述べた。沖縄カナダ協会の大山盛穂会長が「一人でも多くの友だちをつくらせてほしい」と呼び掛けた。参加者が琉球舞踊などを披露し、懇談した。

8月5日(金)



平和のつくり方 県系子弟ら議論

ジュニアスタディーツアー

海外や県外移住者の子弟と、県内の中高生が交流しながら沖縄の歴史や文化を学ぶ「ウチナージュニアスタディーツアー」の5日目がなつ

た4日、参加者44人が糸満市の県平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館を見学し、平和を考えるワークショップに参加した。ワークショップでは「平和をつくる方法」を議論。「政治家が最も力を持っている、すぐに結果を出せるよう政治家に働きかけるのが一番だ」と「戦争を起しているのは政治家。他者を尊敬し、考えの違いを認め合う方が大切ではないか」などさまざまな意見が出た。



8月7日(日)



再会、笑顔で約束

世界県人大大会 プレイベント 子 弟 ら エ イ サ ー 共 演

海外や県外移住者の子弟と県内の中高生が1週間 にわたって交流しながら沖

縄の文化や歴史を学ぶ「ウチナージュニアスタディーツアー」の報告会とさよならパーティーが6日、那覇市のタイムスビルで開かれた。参加者44人はウチナンチュの絆を確認し、今後の交流を約束した。海外参加者らによる各国の踊りや歌と全員で1週間練習してきたエイサーを披露し、笑顔と涙で締めくくられた。シロ・ミネイ・ニコルさん(17)は「戦争体験者の話を聞いた平和学習が一番印象に残った」とスピーチした。「ジュニアスタディーツアー」は、10月に開かれる第6回世界のウチナンチュ大会のプレイベント。第3回大会の際に初めて実施され、今年で16回目。

8月27日(土)



ルーツ触れ 魂目覚め

県人子弟、地元、で躍動

第6回世界のウチナンチュ大会のプレイベントとして、海外や県外移住者の子弟と県内の中高生が1週間 にわたって交流しながら沖

国は違えど家族の絆

ジュニアスタディーツアー 日カ国の若者交流



海外や県外移住者の子弟と県内の中高生が1週間 にわたって交流しながら沖

インターネットを利用した次世代ネットワークの構築



● Facebook

Facebookを利用し、事業実施前から参加者とコンタクトを取ることができた。また事業実施後も毎日のように思い出の写真などを投稿されて、参加者全員が思い出を共有できた。UJS2016参加者44名に対し、現在はスタッフ・ボランティア・過去参加者を含め、66名が参加しているグループとなった。世界のウチナーンチュ大会の開会宣言の応援コメントが海外参加者から投稿されたりや開会宣言の写真が投稿された。これからもUJS関係の情報が入るたびに投稿されていく。

● LINE

さらにLINEでもグループを立ち上げ、県内参加者と海外参加者は日々連絡を取り合い、今年の参加者が誕生日を迎えると、参加者全員から「誕生日おめでとう/HAPPY BIRTHDAY」とお祝いコメントし合っている。

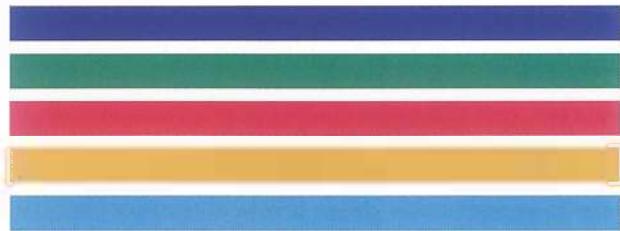
ロゴマーク

●制作意図

世界中から来沖した若者たちと 沖縄の若者たちが出会い交流を 深めていく様を、「Uchina Junior Study」のそれぞれの頭文字を擬人化して表現しています。いろいろな方向を向くそれぞれの瞳は好奇心溢れる参加者のわくわくする気持ちと、さまざまな文化や歴史を学び吸収する 真剣な眼差しをそれぞれ表現しています。

●カラーリング構成

ブルーで友好のチムグクルを
グリーンで協調性を
レッドでウチナンチュの情熱を
イエローであくなき探究心を
スカイブルーで沖縄の美しい自然を
それぞれ表現しています。



●ロゴマーク(横タイプ)

ウェルカムボード、ネームフォルダの際に使用。



●ロゴマーク(ボックスタイプ)

Tシャツのバックに使用。
かわいらしいデザインで
大きくプリントしたためインパクトは
とても強かった。



●Tシャツデザイン

ウチナージュニアスタディーオリジナルTシャツを参加者・県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダーの全員に配布し、県庁表敬・さよならパーティーの際に着用。全体の一体感を醸成し、規律ある団体行動を促した。

また、最後には寄せ書きをみんなで書き合うことにより思い出の品として持ち帰った。

配布するTシャツは、参加者用(白)と県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダー用(黒)の2種類作成。



●横断幕

サイズ250cm×45cm

ウェルカムパーティーでの舞台の垂れ幕に使用。

表敬訪問・首里城での写真撮影に使用。

2016 ウチナージュニアスタディー Uchina Junior Study 2016

第6回 世界のウチナーンチュ大会 2016.10.26(水)～30(日)開催

●ウェルカムボード

空港でのお迎えの際に使用

沖縄方言

日本語・

英語・

韓国語・

スペイン語・

ポルトガル語・

ドイツ語・

フランス語

方言と7カ国で「ようこそ!」と記載。



制作物

●ネームフォルダ

名前(ローマ字含む)・出身国・年齢・血液型・性別・緊急連絡先を記載

日本語圏：黄色

英語圏：赤

スペイン語圏：青

ポルトガル語圏：緑

韓国語：オレンジ

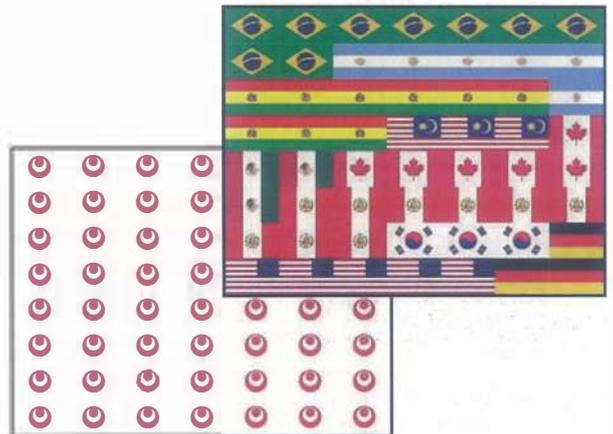
ドイツ語：紫

スタッフ・ボランティア：黒



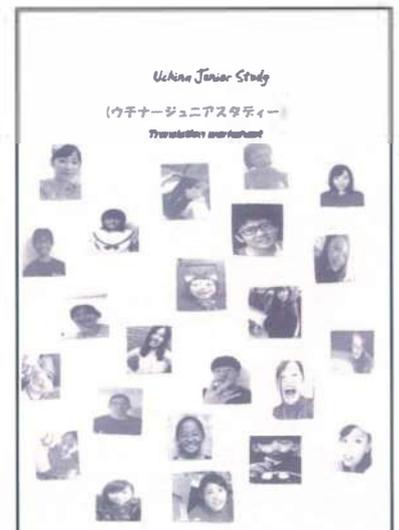
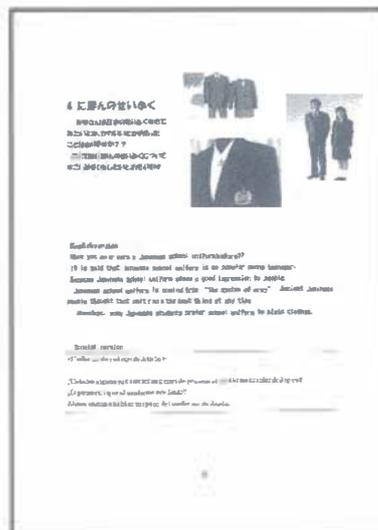
●フェイスシール

最終日の修了式・さよならパーティー・一万人エイサープレイイベントの際、県内・県外参加者・県内参加者は右頬には県旗のフェイスシール、左頬には日の丸のフェイスシールを貼り、海外参加者・海外青年リーダーは右頬には県旗のフェイスシール、左頬には自国のフェイスシールを貼り、「私たちは皆ウチナンチュ」と表現をした。



●トランсляションシート

県内参加者が作成した海外参加者一人一人へのメッセージや沖縄の文化を日本語と英語とスペイン語で紹介が記載されているシート。最終日のさよならパーティーのときに県内参加者から海外参加者へ一人ずつに配布した。渡した際に強く抱擁を交わした。



● ツアーのスケジュール

ツアーが始まる前に1週間ホストファミリーのもとでホームステイする。そこで、1週間の間でプログラムに含まれる観光スポットには行けないので参加者も退屈し、ホストファミリーも困ったという意見を頂いた。ホームステイ→ツアー→ホームステイとして事業をおこなうほうが効率的に良いと考えた。ツアー最終日の翌日すぐに離島参加者・海外参加者は帰省することになっていて、ホストファミリーからは「名護から遠いのに朝早いし、参加者も疲れているし、ホストファミリーとしてももう少し一緒にいたいという気持ちがある」と意見を頂いた。

● 心得の持ち物

海外参加者が準備するものを持ってきていない「聞いていない」いうことも発生した。なので今後そういう事がないように事前に海外に郵送する心得には絵の描いた分かりやすい表示をする。確認として心得を読んだ参加者には「読んだ」というのをメールなどSNSで送ってもらう。また、県内参加者の事前学習で行程表と心得を読み合わせするシーンのときに、海外参加者のホストファミリーも来てもらい一緒に読み合わせをおこなう。

● インカムの件

翻訳中にポルトガル語のインカムに英語の翻訳が途切れ途切れ入ってくるという不具合が起きてしまった。原因はインカム同士が近すぎたり、同時に通訳が翻訳するときに電波の関係でこのようなことが起きた。

● 見学場所に事前に連絡

見学の場所に前日に1度連絡を取って予約を確認する。県立博物館・平和祈念資料館がスタッフとのやりとりができてなくて時間がかかって見学の時間が削られた。プログラムに支障が出た。

● 洗濯(ランドリー)の件

毎日夜になると参加者は洗濯をする。そのたびにランドリー代として要求され、お金を渡していた。1つの洗濯機・コインランドリーで大量の洗濯物をまわすため、乾きが悪くなり何度も利用してしまう。洗濯物を少量に分けてまわすと時間がかかり参加者の睡眠時間が減ってしまう。

● 表彰式

賞状授与の際に海外参加者があまりにも緊張感がなかったため、次年度からしっかり表彰の動作のメリハリをつける。また統括監をリハーサルから表彰者を参加させる。

受入実績

(1)海外参加者・引率者・青年リーダー内訳

★はウチナンチュ大会開催年

○国別内訳

()内は、平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
国名	★					★					★					★	
ポリビア	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	4 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (1)	1 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	3 (1)	35 (5)
ブラジル	8 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3 (1)	3 (1)	54 (12)
うちカンボグランド	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	17 (3)
アルゼンチン	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	1 (1)	3 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	36 (6)
ペルー	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	3 (1)	34 (9)
ベネズエラ	1 (1)																1 (1)
メキシコ	2 (1)					1 (1)			1 (1)	11 (1)							
キューバ		1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)							7 (7)
フランス	1 (1)																1 (1)
イギリス	1 (1)				1 (1)	2 (1)					1 (1)						5 (2)
ドイツ	1 (1)						1 (1)			1 (1)		1 (1)		1 (1)		1 (1)	5 (3)
アメリカ	17 (4)	6 (2)	6 (4)	5 (1)	5 (1)	10 (2)	5 (1)	4 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	4 (1)	94 (21)
うちハワイ		2 (2)		2 (1)		1 (1)						1 (1)					9 (1)
うちグアム	1 (1)																2 (1)
カナダ	4 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		2 (1)	21 (3)
フィリピン	3 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)										11 (3)
シンガポール		1 (1)															1 (1)
マレーシア						1 (1)		1 (1)			1 (1)			1 (1)	1 (1)	1 (1)	6 (1)
韓国														1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (1)
ニューカレドニア								1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)				5 (1)
計	50 (17)	20 (9)	19 (9)	17 (5)	17 (5)	34 (6)	17 (4)	15 (4)	18 (4)	21 (5)	23 (3)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	20 (1)	330 (76)

○世代別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
国名	★					★					★					★	
1世				1	2	1		1			1		1			1	8
2世	26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	8	5	2	5	3	5	108
3世	21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	8	4	6	7	4	8	134
4世	3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	6	5	6	3	8	6	78
5世						1				1							2
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	330

○海外参加者の男女別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
国名	★					★					★					★	
男子	30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	10	6	6	6	7	7	139
女子	20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	13	8	9	9	8	13	191
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	330

(2)県内・県外参加者内訳

★はウチナンチュ大会開催年

○学生別内訳

※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
国名	★					★					★					★	
小学生	9																9
中学生	24	13	7	5	4	11	4	4	5	6	7	2	3	5	4	4	108
高校生	17	11	18	15	15	22	13	11	13	15	17	12	12	11	12	18	232
計	50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	16	22	349

○県内・県外参加者の男女別内訳

※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
国名	★					★					★					★	
男子	15	6	4	4	5	7	3	3	4	3	4	2	3	3	4	4	74
女子	35	18	21	16	14	26	14	12	14	18	20	12	12	13	12	18	275
計	50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	16	22	349

(3)参加者合計(海外・県内・県外)

○参加者合計

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
海外	★					★					★					★	
海外	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	330
県内・国内	50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	16	22	349
計	100	44	44	37	36	67	34	30	36	42	47	28	30	31	31	42	679